DEFIANT EVERBURN
WOODBURNING STOVE
取扱説明書
MODEL#1610
［デファイアント エヴァーバーン］

VERMONT CASTINGS

ようこそ薪ストーブの国へ
Welcome to Wood Stove-Country.

薪ストーブの国へ、ようこそいらっしゃいました。
この度は、バーモント・キャスティングス社の〈デファイアント エヴァーバーン〉を
お買い上げいただき、ありがとうございます。
今日から、あなたも薪ストーブの国の住人です。

さて、これから薪ストーブの炎がゆらめく素晴らしい日々がはじまりますが、
その前にお願いしたいことがあります。
それは、この「取扱説明書」を必ずていねいにお読みいただくことです。
そして、この薪ストーブをより正しくご使用し、
いつまでもこの薪ストーブとともに暖かい人生を
分かちあっていただきたいということです。
なお、この説明書は保管していただき、
後日、分からないことが起こった折に再読なされることをおすすめします。

目次

安全に正しくお使いいただくために…… 4
1. デファイアント エヴァーバーン…… 8
2. デファイアント エヴァーバーンの基礎知識…… 9
3. 本体及び煙突設置基準…… 12
4. 薪について…… 14
5. 薪の着火と燃焼維持
着火の前に用意するもの…… 16
慣らし焚き…… 17
焚き方…… 18
薪の補充…… 20
消火…… 21
灰の処理…… 21
エアコントロールについて…… 22
6. ドラフト管理…… 24
7. メンテナンス
メンテナンス・スケジュール…… 28
薪ストーブ本体のお手入れ…… 29
ドアガラスの交換…… 30
ファイバーロープの交換…… 31
ドアの調整（フロント、灰受け）…… 34
バイパスダンパーの調整…… 36
アンダイアンの調整…… 37
二次燃焼室の点検清掃…… 38
煙突掃除…… 41
8. パーツリスト…… 42
9. トラブルシュート…… 44
10. 保証とアフターサービス…… 47

必ずお読みください

安全に正しくお使いいただくために

警告表示について

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためにいろいろな警告表示をしています。誤った取扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告表示の意味

危険

人が死亡または重傷を負う恐れが高い内容を示しています。

警告

人が怪我または財産に損害を受ける恐れがある内容を示しています。

表示は、してはいけないことを表しています。

表示は、しなければならないことを表しています。

⚠ 危険

設置上

本体及び煙突の設置は、建築基準法及び消防法お住まいの地域の火災予防条例に従ってください。

ご使用前には本体及び煙突が安全に設置されているかどうか必ず点検を行ってください。（設置基準については本書13ページをご覧ください）もし、設置の不備や変形及び破損を発見した場合、そのままご使用にならずに、お買い求めの販売店へご相談ください。製品の取付方法を誤ると、建築物への損傷はおろか地域住民の健康を害することにもなり兼ねないため、ご注意ください。

本体は必ず本書13ページの内容に従って設置してください。法規条例と矛盾する場合には法規条例を優先してください。可燃材の上に設置してはいけません、輻射熱、熱伝導により、火災の原因となります。床を適切に保護し、付属のボトムヒートシールドを必ず取付けて使用してください。

室内の空気を燃焼空気として使用しますので、ストーブ設置室には外気を取り入れる給気口が必要です。またはストーブに直接給気ダクトを接続すること。

本体を不安定な場所へ設置しないでください。転倒による怪我や破損の原因となります。

本体正面の122cm以内に、薪、家具、カーテン、洗濯物等燃えやすい物を近づけないでください。火災の原因となります。

ストーブ廻りの可燃物との離隔距離は本書13ページに従って設置して下さい。

⚠ 危険

使用上

⃠ 本書28ページにもとづくパーツ交換等のメンテナンス以外での本体の分解、またお客様ご自身の判断による本体の改造はしないでください。正常な燃焼が行われず本体の破損や火災の原因となります。

⃠ 引火性のあるガソリン、灯油、揮発性の液体や、スプレー缶などの高圧容器等を本体の上やそばに置かないでください。爆発、引火による火災や有害物質の発生の原因となります。

⃠ 本体、煙突に強い衝撃や過度な力を与えないでください。破損の原因となります。

❗ ご使用中クッキング・グリドル（トップローディング・ドア）やフロント・ドアを開ける際には必ずバイパス・ダンパーを開けてください。バイパス・ダンパーを閉めたままクッキング・グリドルやフロント・ドアを開けると室内に煙や炎が流出し危険です。

⃠ クッキング・グリドル（トップローディング・ドア）とフロント・ドアを同時に開けないでください。室内に煙や炎が流出し危険です。

⃠ ご使用中に各ドアを開けたまま本体のそばから離れないでください。火の粉が飛んだり、薪が転がり落ちて火災の原因となります。

⃠ 焚きすぎないで下さい。ストーブトップ温度400℃以上で継続して使用すると本体の破損や火災の原因となります。

⃠ ご使用中に灰受けドアを開けないでください。空気が調節できずに過燃焼となり、本体の破損や火災の原因となります。

❗ 本体のドアを開放し暖炉風に使用する場合、必ず専用オプション品のファイヤー・スクリーン（9ページ）をご使用ください（ただし、直径150mmの煙突をご利用の場合は、暖炉風に使用できません）。火の粉が飛んだり、薪が転がり落ちたりして火災の原因となります。またその際、薪の入れすぎに注意し、本体から離れずに、常に火の状態をご確認ください。

❗ 定期的（少なくとも1年に1回）に本体及び煙突のメンテナンスを行ってください。メンテナンスを怠ると正常な燃焼が行われず、ストーブの破損や火災の原因となります。詳しくは本書28ページの「メンテナンス」をご参照ください。

❗ 定期的（少なくとも1年に1回）に煙突内部の点検を行ってください。煙突内部に煤がたまると煙突火災がおきる可能性があり、非常に危険です。内部に煤、クレオソート等が3mm以上たまっていれば、必ず煙突掃除を行ってください。万一煙突火災（26ページの「クレオソート」をご参照ください。）が発生した場合、火力調節レバー、各ドアを閉めて屋外へ避難して消防署に連絡してください。後に必ず専門業者に点検を依頼してください。

❗ 灰は火の気が完全に消えたことをご確認の上、不燃性の密閉できるフタの付いた灰取りバケツに入れて、72時間以上経過してから処理してください。また、灰取りバケツは必ず厚み5cm以上の金属以外の不燃材の上に回りの可燃物から遠ざけて置いてください。可燃材の上に置くとバケツ底面からの熱が伝わり、火災の原因となります。

⃠ お子様をストーブに近づけないでください。火傷や怪我の危険があります。あらかじめオプション品のハースゲート等のフェンスを設けることをおすすめします。

必ずお読みください

安全に正しくお使いいただくために

⚠ 警告

⃠ 乾燥した自然の薪以外は燃やさないでください。有害物質の発生や本体の変形、破損の原因となります。

⃠ 塩水、海水につかった流木、ペンキ、薬品、接着剤など化学処理された木材、生ゴミ、プラスチック、ガソリン、オイル、灯油等を燃さないでください。

⃠ ガラスを叩いたり、ドアを激しく閉めないでください。ドアガラスが破損する可能性があり、危険です。また各ドアで手を挟まないように気をつけてください。

⃠ 急激な温度変化（急冷却、急加熱）を与えないでください。本体の変形、破損の原因となります。

⃠ 過度な加熱、局部的な加熱をしないでください。本体の歪み、割れ、変形等の原因となります。

❗ 必ずお買い求めの販売店からストーブの焚き方について説明を受けてください。

❗ 事故防止のために、ご就寝の際には、本体のすべてのドアを完全に閉めてください。また周囲に燃えやすい物が無いことをご確認ください。

❗ 事故防止のために、お出かけの際には、本体が完全に冷えていることをご確認ください。

❗ 地震や落雷にあった場合、本体及び煙突まわりの点検を行ってください。変形及び破損、煙突の接続、支持不良、または建物の損壊を発見した場合、そのままご使用にならず、お買い求めの販売店へご相談ください。なお、隠蔽部等、お客様ご自身で点検が困難な場合、お買い求めの販売店へご依頼ください。

❗ ご使用中は本体及び煙突が非常に高温になりますので、火傷には十分気をつけてください。

❗ ご使用中、万が一火傷を負ったときは、応急処置として、すぐに患部を流水にて15分以上冷やしてください。なおその際、強い水圧は当てないでください。その後速やかに医師の診断を受けてください。

⚠ 注意

! 非常時に備え消火器を決まった場所に置いてください。

⃠ 湿気、塩分の多い場所、または有害薬品のある場所への設置はしないでください。本体の破損や腐食の原因となります。

火災の早期発見のため煙感知器を設置することをおすすめします。その際ストーブとの距離を考慮に入れ誤報にならない様注意が必要です。

⃠ 本体の燃焼中に換気扇を使用する場合には、煙が逆流（室内にもれる）しないことをご確認の上ご使用ください。もし煙が逆流する時は、ご使用をおやめになり販売店へご相談ください。

! 本体を焚き始める前に、必ず「慣らし焚き」を行ってください。いきなり高温で使用すると破損の原因になります（「慣らし焚き」の方法については17ページをご覧ください）。

! 焚きはじめの数回は、部屋を十分に換気してください。薪ストーブと室内煙突に塗られている錆び止め油や塗料が熱せられ、においと煙が発生します。

! ホウロウ仕上げの本体は、性質上、仕上げ面が衝撃に非常に弱い為、お取扱いに十分ご注意ください。
またホウロウに急激な温度変化を加えないでください。破損、剥がれの原因となります。

⃠ 薪をくべる時などの操作時には、化学繊維で作られた手袋や軍手の使用は避けてください。専用の皮製ストーブ・グローブを使用し、なおかつ火傷には十分ご注意ください。

! 本体のお手入れは、本体が完全に冷えていることをご確認の上行ってください。火傷の原因となります。

⃠ 本体が錆びますので、水分、塩分を付着させないでください。誤って付着した場合はすぐに拭きとって乾かしてください。

「デファイアント エヴァーバーン」

1 歴史を受け継ぐもの

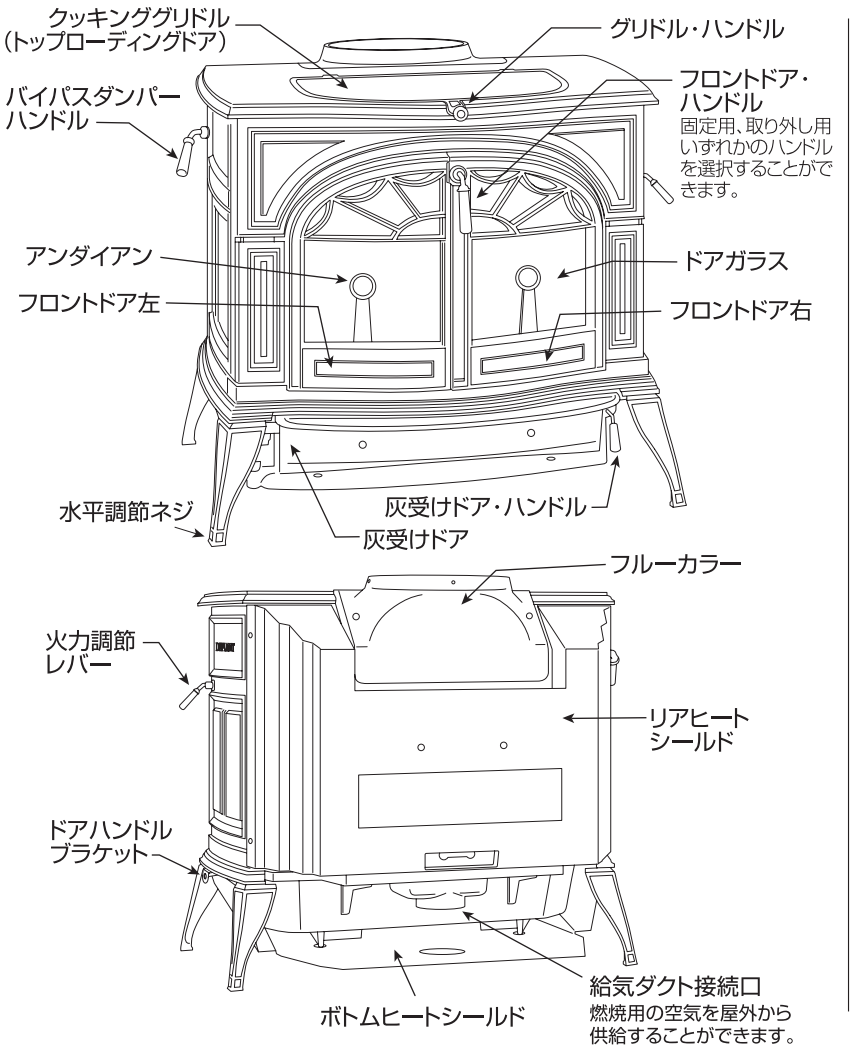
オイルショックの時代である1975年、バーモントキャスティングス社の初代「デファイアント」は、2人の起業家によって開発されました。19世紀の蒸気船の名前から命名されたデファイアントは、それまでとは違う高いデザイン性と効果的な燃焼を可能にする新技術を兼ね備えた初の薪ストーブでした。オイルショックにより、薪を燃料とした暖房が再評価されるにつれ、「デファイアント」はアメリカで25万台以上が販売されました。

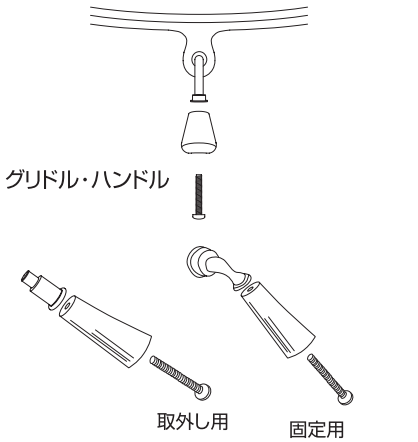
その後アメリカ合衆国の法律で排煙の規制ができ、結果薪ストーブの燃焼技術が飛躍的に向上しました。バーモントキャスティングス社は煙を再燃焼させるために触媒を使った方法、さらに薪の燃焼を効率的にコントロールできる水平燃焼システム等を開発しました。

そして2005年に耐火セラミックで内張された堅牢な燃焼室と、セラミックファイバーで成型された独特の形状をした2次燃焼室を開発し「アンコール」「デファイアント」に搭載しました。この燃焼方式は「エヴァーバーン」と名付けられ、触媒のない機種での長時間燃焼とクリーンな排気を実現しました。「デファイアントエヴァーバーン」は末永くお使い頂けるロングライフの薪ストーブとしてかかせない存在になるでしょう。

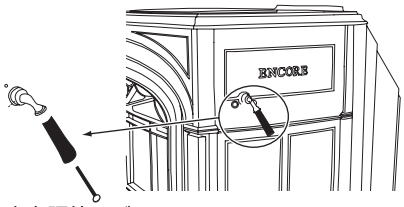
デファイアント エヴァーバーンの基礎知識

各部名称

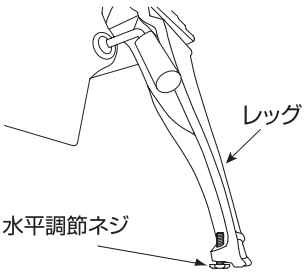




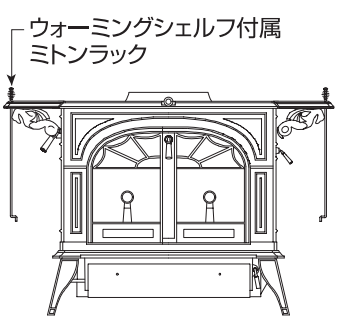
フロントドア・ハンドル（取外し用・固定用・セラミック製）
バイパスダンパー・ハンドル（固定用・木製）
※セラミック製ハンドルは破損し易いので落下等衝撃にご注意下さい。

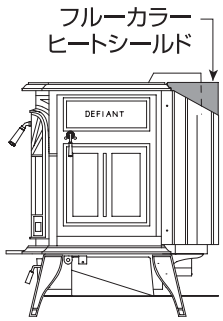


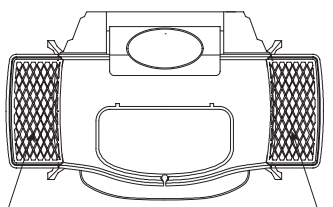
火力調節レバー



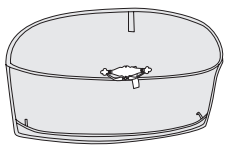
オプション







【ウォーミングシェルフ】
料理を温めたり、クッキンググリドルより薪をくべる時に鍋等を置くことができます。



【ファイヤースクリーン】
ドアを暖炉風に開け放った状態で使用する時に使います。使用煙突の直径がφ150ミリメートルで設置されている場合には使用できません。室内に煙がもれ出る可能性があります。

デファイアント エヴァーバーンの基礎知識

2 デファイアント エヴァーバーンの機能と特徴

●燃焼コントロールシステム

1 一次燃焼空気調節

ストーブの右側にある火力調節レバーで薪の燃焼に必要な空気の量を増減します。ストーブに入る空気が多いほど、火はより強く燃え、空気量が少ないと弱くなります。

ストーブの後部底面より給気された一次燃焼空気は底面から側面へと暖めながら導かれ、フロントドアの内側上部からエアーカーテンとなって炉内に進入します。ここで火力調節レバーに連動した空気調節フラップが空気量を増減させます。この空気がガラスの汚れを防ぎながら、一次燃焼空気として供給されます。

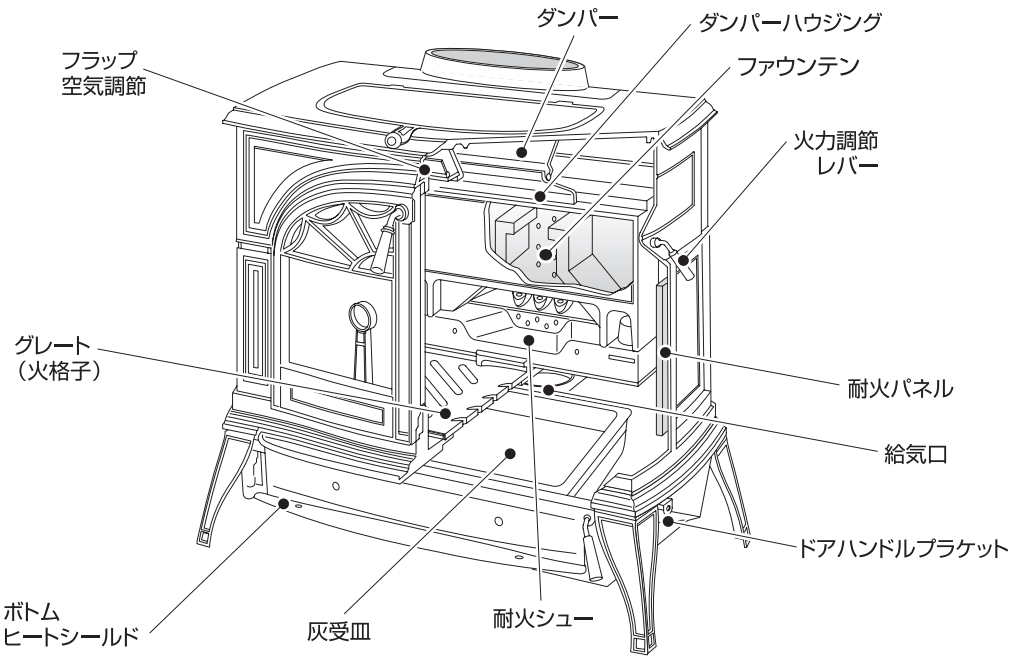
2 バイパスダンパー

ストーブの左側にあるバイパスダンパーハンドルでバイパスダンパーを操作して、燃焼室内の排気経路の切り替えをおこない、二次燃焼室を起動／停止させます。着火時や薪の追加時には、バイパスダンパーを開き、垂直燃焼モードにします。バイパスダンパーを閉めることにより水平燃焼モードに切り替わり、煙はセラミックファイバー製二次燃焼室（ファウンテン）を通過する際に二次燃焼します。（P19「2つの燃焼モード」参照）。薪の使用量を抑え、少ない薪から最大のエネルギーを引き出します。

3 二次燃焼空気

デファイアント　エヴァーバーンは一次燃焼した燃料から放出される煙を二次燃焼室で再燃焼させます。二次燃焼空気は一次燃焼空気同様、本体後部底面より給気された後、二次燃焼ボックス内に導かれます。空気量は燃焼の強弱によって必要に応じて供給されます。

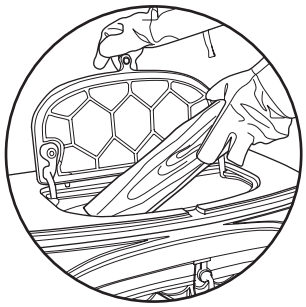
注意 煙突のドラフトが強すぎる場合、燃焼が大きくなることがあります。その場合には「煙突ダンパー」の調節で制御が可能です。設置は専門業者にご相談ください。



デファイアント エヴァーバーンの機能と特長

●トップローディング

開閉式のクッキンググリドルから楽な姿勢で安全に薪の補充ができます。またこのクッキンググリドルで料理をすることができます。



●セラミックファイバーの二次燃焼ボックス

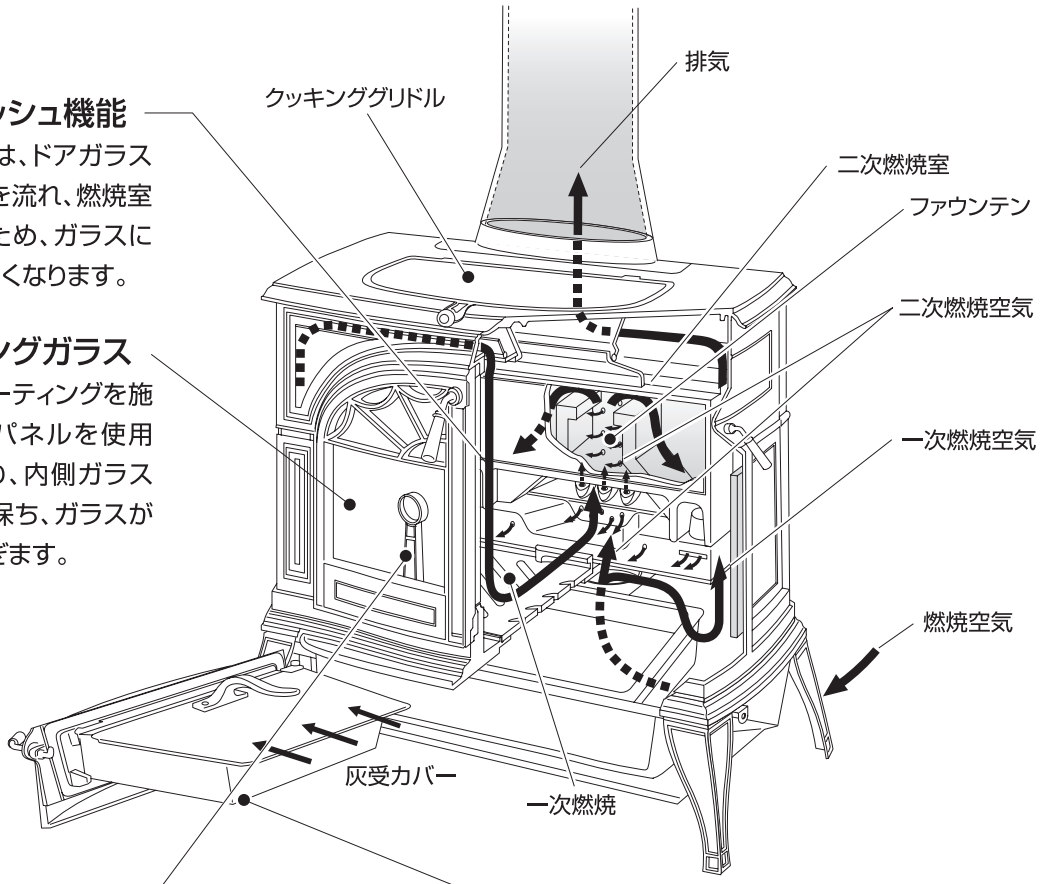
耐火性、蓄熱性、耐久性に優れたセラミックファイバーの二次燃焼室を採用。煙に含まれるクレオソートや煤等の副生成物を再燃焼。クリーンな排気を達成します。

●エアウォッシュ機能

一次燃焼空気は、ドアガラスの内側の表面を流れ、燃焼室に供給されるため、ガラスにススが付きにくくなります。

●コーティングガラス

赤外線反射コーティングを施されたガラスパネルを使用することにより、内側ガラス表面を高温に保ち、ガラスが汚れるのを防ぎます。



●アンダイアン

燃焼中、フロントドアを開ける際に薪がこぼれ落ちてくるのを防ぎます。また、ドアガラスの保護、燃焼空気の対流層を確保する役目も担っております。

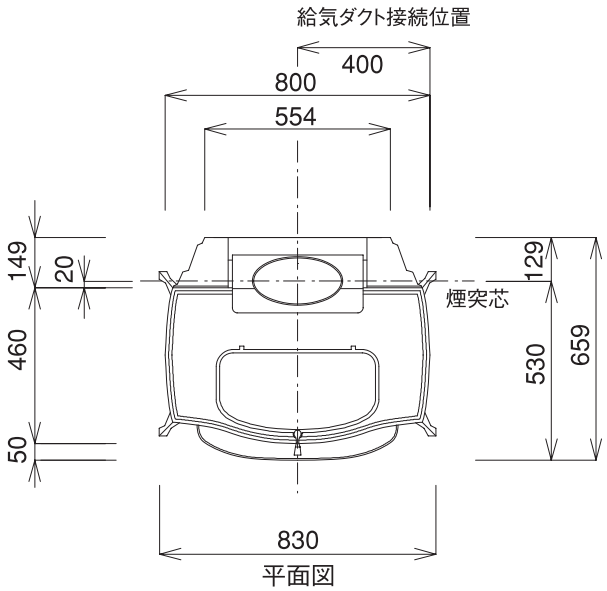
●灰受け皿

灰はグレートのすきまから灰受け皿に落とすことができるので、かき出す手間がかかりません。さらに、たまった灰は灰受け皿ごと取り出すことができるので、手や床を汚すことなく簡単に処理できます。

本体及び煙突設置基準

3 本体寸法図／仕様

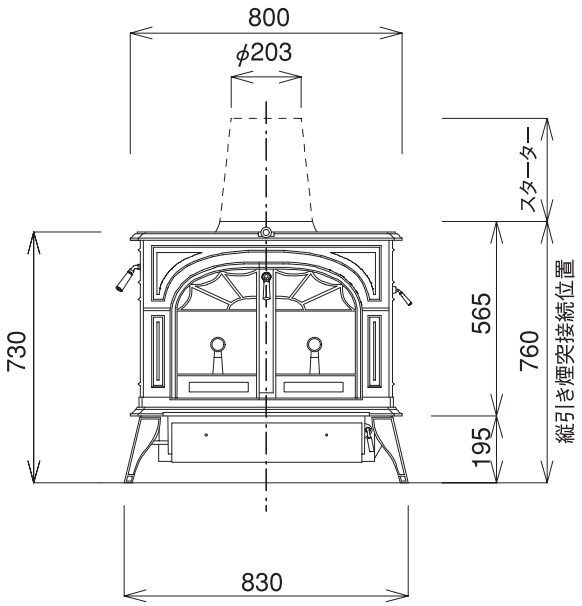
単位：㎜



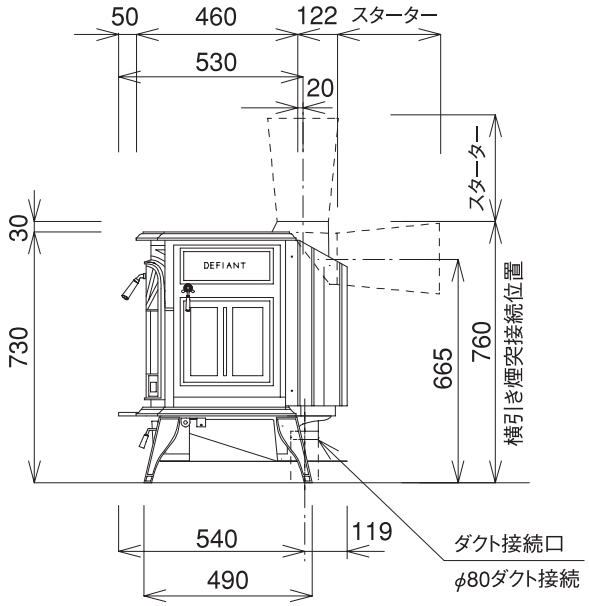
平面図

仕 様

◇ストーブ重量:222kg
◇燃料容量23kg
◇最大薪長さ60㎝
◇最大出力15,000kcal/hr（17.4Kw/hr）
◇最大暖房面積223m²（68坪）
◇燃焼効率69%
◇EPA廃棄物量0.75g/hr
◇接続煙突径φ200又はφ150㎜
◇フタ付灰受皿
◇手動式温度調節機能
◇水平燃焼システム
◇ガラス・エアウォッシュシステム
◇耐熱セラミックガラス
◇トップローディング&クッキンググリドル
◇脚レベル調整
◇仕上:黒耐熱塗装またはホウロウ
◇給気ダクト接続口



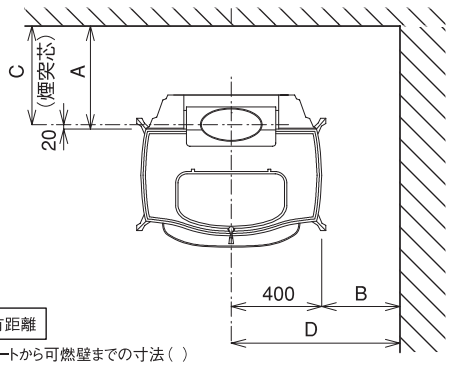
立面図

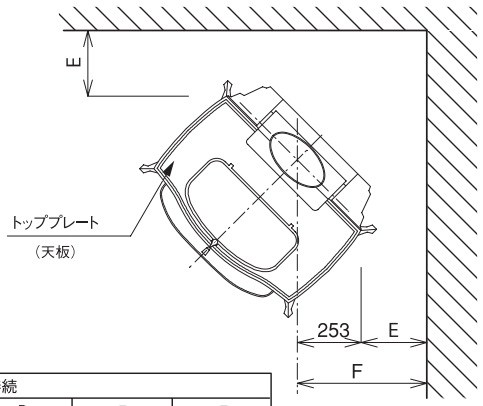


側面図

設置基準

●本体離隔距離





最低保有距離

トッププレートから可燃壁までの寸法( )

	煙突垂直接続					
壁仕上	A	B	C	D	E	F
可燃材　フルカラーシールド	889	660	869	1060	686	939
可燃材　フルカラーシールド+煙突シールド※2	660	660	640	1060	686	939
保護壁※1 フルカラーシールド	889	660	869	1060	596	849
保護壁※1 フルカラーシールド+煙突シールド※2	430	660	410	1060	508	761

※1 保護壁とは25mm以上の空気層のある高さ、幅1220mm以上の不燃材の遮断壁。(れんがや石やその他の不燃材。)

※2 煙突シールドは一重煙突の全長にわたり取り付ける。

本体のフロントより可燃物(家具など)との最低距離は1220mm。

●床:炉台(ステージ)の寸法

最低50ミリメートル以上の断熱性不燃材を敷いてください。

前面(ドアより)	後方床面	側面	幅	奥行き
460以上	203以上	203以上	1236以上	1272以上

●煙突基準

●[3メートル基準]煙突は、屋根を貫通する部分から90センチメートル以上高くし、さらに水平に測った周囲3メートル以内の障害物よりも60センチメートル以上高くしてください。

●煙突の高さはストーブトップから最低5メートルです。

●お住まいの地区の標高によっては、煙突をより高く立ち上げなければならなくなります。

●接続煙突の直径がφ150ミリメートルの仕様の場合は、右の表で標高と最低煙突高を参考にしてください。

標高	最低煙突高
0m	5m以上
500m	5.2m以上
1000m	6.0m以上
1500m	6.7m以上
2000m	7.3m以上

●室内に使用する一重(シングル)煙突は本体より最長2.4メートルまでで、それより上部及び隠蔽部や屋外は二重断熱煙突を使います。一重(シングル)煙突では天井や壁を貫通させないでください。

●天井高2.4メートル以下の部屋には設置できません。

●煙突離隔距離(煙突表面から可燃物資表面まで)

		壁		水平煙突と可燃天井
		可燃壁	保護壁※1	
室内一重煙突	煙突シールド無※2	749	546	762
	煙突シールド付※2	546	343	−
断熱二重煙突(断熱層を含む)		150	150	−

●二重断熱煙突は煙突火災に対応した熱衝撃テストに合格した認定品(例:UL.BS)をご使用ください。

●煙突の水平に延ばす距離はできるだけ短くし、最長でも90センチメートル以内にしてください。

●90°の曲がり部分は、2ヶ所までにして下さい。

●デファイアント　エヴァーバーンに使用する標準煙突の太さは直径20センチですが、排煙低抗が小さい場合は直径15センチでも可能です。

重要 ⚠

設置基準に従わない場合、煙突火災や住宅火災など、危険な状況を引き起こす場合があります。説明書の全ての内容に的確に従い、家屋及び人身をおびやかす結果となる一時しのぎの妥協は決して行わないで下さい。

煙突は建築物に対して十分な支持をし堅固に固定されていなければなりません。ストーブ本体は平らで水平な不燃床の上にガタつきがない状態で設置してください。

地震の際に転倒、倒壊しない様、安全を確認してください。

薪について

使用する薪の条件

切られてすぐの生木は、その50%が水分です。その木を薪として燃やすには水分を20%前後まで乾燥させることが大切になります。薪は割られることにより空気に触れる表面積が大きくなるのでより早く乾燥させることができます。割った薪は少なくても12～18ヶ月は乾燥させてください。薪の太さや樹種にもよりますが、冬に切って2年間乾燥させた薪が理想の薪といえます。

薪は針葉樹系の軟木と広葉樹系の堅木とに分けることができます。軟木は乾燥しやすく着火力に優れていますが、火持ちがよくありません。堅木は、その逆の性質をもっています。十分に乾燥していても、なおズッシリと重い薪が質量に富み、暖房用には優れた薪といえます。

堅木		軟木	
火持ちがよく 暖める力が大きい		火持ちはよくないが すぐに火力がでる	
・ミズナラ	・ニレ	針葉樹	広葉樹
・コナラ	・カキ	・カラマツ	・シラカバ
・クヌギ	・クスノキ	・アカマツ	・ポプラ等
・アカシア	・サクラ等	・スギ	
・ブナ		・ヒノキ等	

●薪を入手するためのヒント

・地元の森林組合、または営林署に問い合わせて購入する
・薪業者（燃料屋）から購入する
・チップ工場に問い合わせるか、原木を納入している業者に卸してもらう。
・果樹園で剪定した木を譲ってもらう。
・山林地主と知り合いになり、間伐材を譲ってもらう。
・地元の役場に問い合わせて、公園の木や街路樹の剪定枝を払い下げてもらう。
・近所で家の新築工事があったら、大工さんにかけあって端材を譲ってもらう。

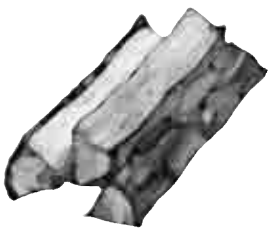
使用する薪の種類

温度や燃焼時間を調節するために、大きく分けて「焚き付け用」「中ぐらい」「長時間用」の3種類の薪を用意します。たき火の火をおこす時のように細い薪や枯れ枝に着火し、徐々に太い薪をくべていきます。薪を使い分けることで、薪ストーブの温度や燃焼時間を調節しやすくなります。

ポイント

デファイアント エヴァーバーンに入る薪の長さは60cm以内です。

焚き付け用の細い薪
（直径約1.0cm～約1.5cm）



中くらいの薪
（直径約5cm前後）

長い時間燃やすための
太い薪
（直径約10cm以上）

危険

乾燥していない薪は、薪ストーブの性能を十分に引き出すことができません。暖まりにくく、燃やすとクレオソートや煤が多く発生し煙突内に付着するので、煙突掃除をこまめにしなければ「煙道火災」の原因にもなりかねません。また腐ったり、化学処理をされた木は薪ストーブ及び煙突をいためますので使用しないでください。ドアガラスの汚れの原因にもなります。

薪作りのための斧と薪割り

●手斧

片手用の小型斧。焚き付け用に薪を細く割ったり、細枝を切ったりするのに便利。

●小型薪割り

両手、片手兼用の薪割り。
小径木の玉割り材を割るときに。

●大型薪割り

両手用の本格的な薪割り。

●薪割りモール

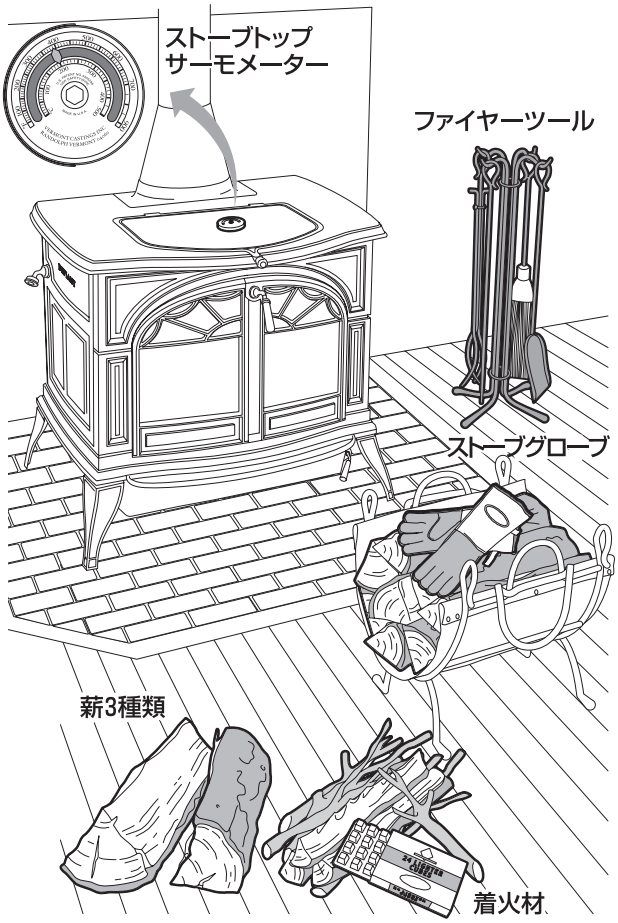
斧頭が鎚を兼用する薪割り。
割れにくいときは、
この斧頭で楔を打ち込んで割ります。

●薪割り楔（くさび）

薪割りでは割りにくい薪を
割るための鋼鉄製の楔。
2枚の楔があれば、ほとんどの薪を
割ることができます。

薪の着火と燃焼維持

5 着火の前に用意するもの



●ストーブトップサーモメーター

ストーブの状態を知るのに欠かせないツールです。燃焼モードの切り替え時期や火力調整操作のタイミングを的確に知らせてくれます。過燃焼の危険な状態が一目で分かります。

●ファイヤーツール

火かき棒／炉の中の操作には必需品です。
スコップ／灰をすくう時に重宝します。
ほうき／ストーブまわりのお掃除に。
火ばさみ／炉の中の薪の位置を変えたい時に。

●ストーブグローブ

熱に強い革の素材の物が適しています。薪をくべる時やハンドル、レバーをつかむ時に熱さから手を保護してくれます。

●薪3種類

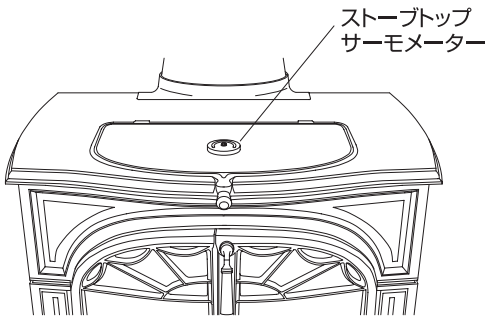
細い薪／焚き付け用　太さ1～1.5cm
中くらいの薪／立ち上げ用　太さ5cm前後
太い薪／長い時間用　太さ10cm以上

●着火剤

着火剤（パラフィン）

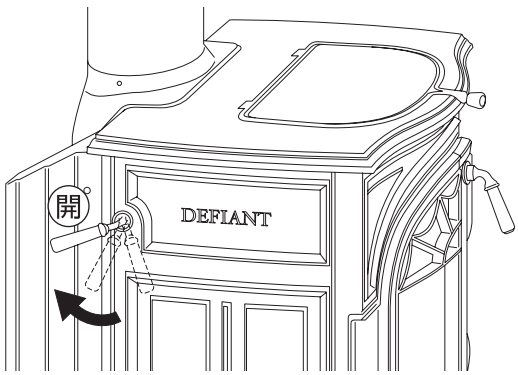
慣らし焚き

ストーブを本格的に焚く前には、必ず「慣らし焚き」を行なってください。
新しいストーブを、一気に高温で焚くと、鋳物同士のひずみや破損の恐れがあります。ストーブトップ・サーモメーターが260℃以下の状態で3～4回にわけて焚き、温度の上昇と冷却を繰り返すことにより、鋳物の接合部を馴染ませることができます。この慣らし焚きを行うことにより耐久性が向上します。



ストーブトップサーモメーターは、火力調整や燃料補給の目安になります。クッキンググリドルの中央付近に置き、温度を測定します。（イラスト参照）

1 バイパスダンパーハンドルを後方に押しダンパーを開けます。

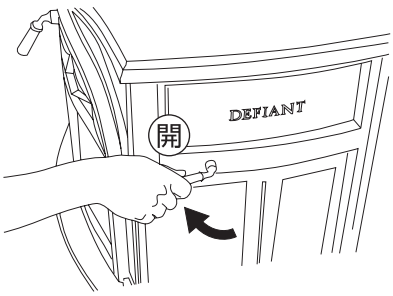


ポイント　「慣らし焚き」の間は、バイパスダンパーを開けたままにしておきます。

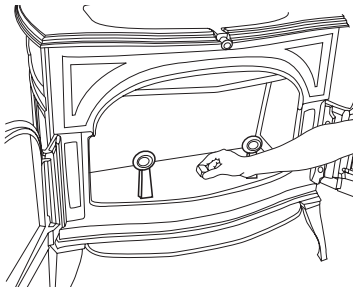
注意　燃焼を始める前にお部屋の外気取り入れ用の給気口を必ず開けてください。部屋に煙りがもれることがあります。

慣らし焚き

2 火力調節レバーを手前に引き全開にします。



3 フロント･ドアを開け、着火剤1～2個を入れます。

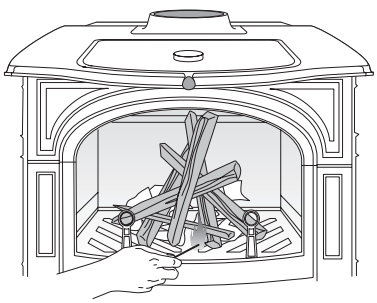


4 着火剤の上に4～5本の「焚き付け用の薪」をのせます。

5 隙間を空けながらさらに2～3本の「中くらいの薪」を組みます。

ポイント 燃焼空気の通りが良くなるように隙間をあけて配置してください。

6 着火剤に点火してください。薪に着火したことを確認したらフロントドアを閉めます。



注意 燃焼中は決して灰受ドアを開けないでください。火力が強くなりストーブの劣化を早めます。

ポイント 慣らし焚きの場合は、これ以上薪を入れるのをやめ、ストーブトップ･サーモメーターが260℃以上にならないよう火力調整レバーで空気を調節します。そのまま薪が燃えつきるまで放置して、火が消えてから30分程冷まします。着火からここまでを3～4回繰り返します。

注意 この時、ストーブや室内煙突の錆び止め油や塗料が加熱されて、においと煙が発生します。使用を始めてからの数回は窓を開けるなど、お部屋の空気を十分に換気してください。

うまくつかない、燃えない、逆流する!?

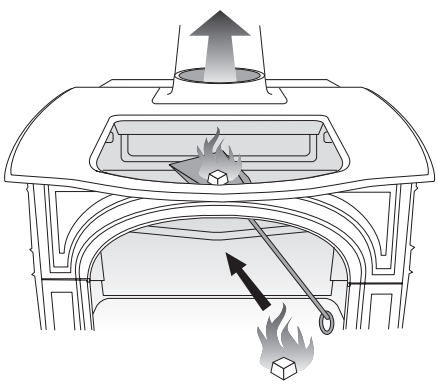
煙突が冷えていると、ドラフト（上昇気流）が弱く、うまく着火しない、燃えない、逆流するなどの問題が起こる場合があります。このような場合は、バイパスダンパー付近に火をかざし煙突をよく暖め、ドラフトを発生させる手助けをします。慣らし焚きの手順5の段階で下の手順で煙突を暖めてください。

1 ファイヤーツールのシャベル等の上で着火剤を燃やします。

2 クッキングドリルを閉めフロントドアを開けた状態で、ダンパー付近に着火剤の火をかざし、煙突をよく暖めます。

3 ドラフトが発生したら着火方法6に従い、薪の着火を始めます。

ポイント ドラフトが発生すると着火剤の火が煙突方向に引き寄せられます。



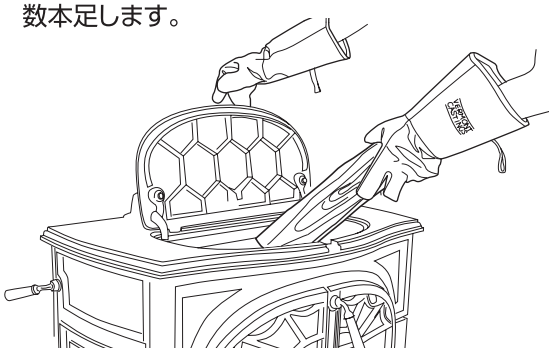
薪の着火と燃焼維持

5 焚き方

「慣らし焚き」の 1 〜 6 の手順で着火を行います。

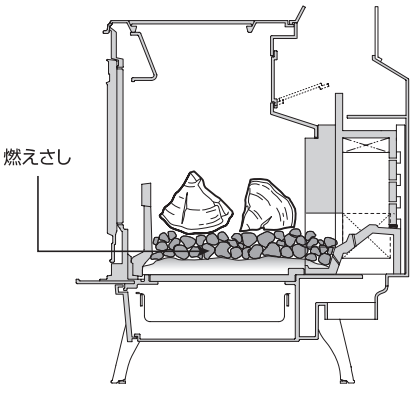
注意 着火の前に『耐火シューの空気孔』の灰をブラシなどで取り除いてください。（38ページ参照）

7 薪全体に火が行きわたり、勢いよく燃えてきたらクッキンググリドルを開け、上から中〜太い薪を数本足します。

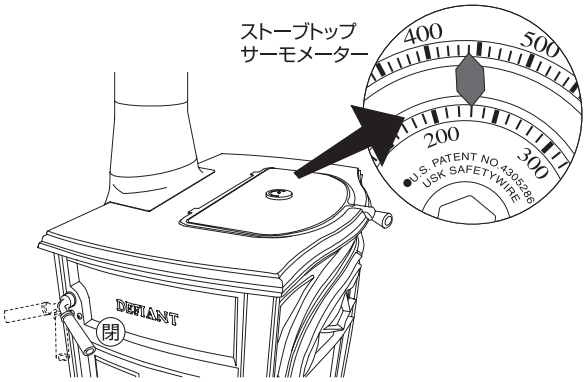


ポイント 薪を足した後は、グレート（火格子）の上に燃えさしがたまるまで、十分に火を燃やします。

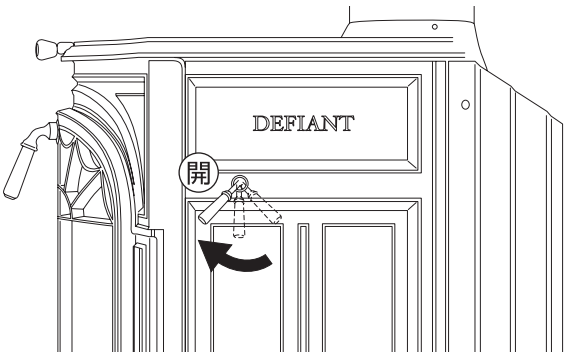
8 真っ赤な燃えさし床が火床全体にできるまで、薪の補給を続けます。1時間以上経過して、5〜6センチの燃えさしがたまり、ストーブトップ・サーモメーターが230℃を超えていたらバイパスダンパーを閉めます。



ポイント 二次燃焼が開始するにはストーブが全体に熱くなり十分な燃えさし床が必要です。



9 火力調節レバーを「開」のまま、5〜15分くらい燃やします。その後火力調節レバーを調整します。

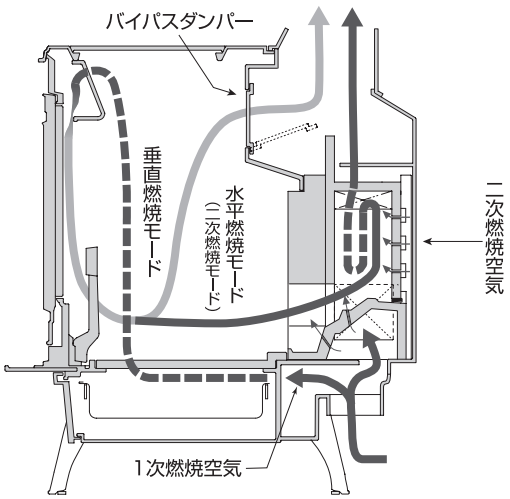


ポイント ストーブトップ・サーモメーターの温度が400℃以上にならないように必要に応じて火力を調節してください。ストーブが部分的に赤熱している時は過剰燃焼です。火力調節レバーで給気量を減らし燃焼出力を下げてください。

注意 400℃以上で継続して使用するとストーブ本体の破損の原因となります。一時的に400℃を越えるのは問題ありません。

注意 バイパスダンパーを閉めたまま各ドアを開けないでください。

注意 バイパスダンパーは完全に開けておくか、完全に閉めておきます。中間位置はありません。バイパスダンパーを閉める際は、ハンドルがロックするまでしっかりと回転させてください。



2つの燃焼モード

垂直燃焼モード

着火・薪の補充の燃焼の立ち上げ時にバイパスダンパーを開けて燃焼させるモード。煙はバイパスダンパーを通り煙突に導かれる。薪は全体に燃える。

水平燃焼モード

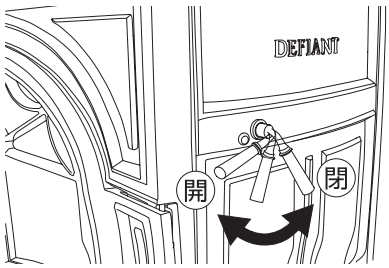
ストーブが230℃以上になってからバイパスダンパーを閉めることにより、煙が本体背面の2次燃焼室に導かれ再燃焼する。薪は下の方から徐々に燃える。

●ストーブトップ・サーモメーターの温度について

230℃ ストーブ温度は二次燃焼室内での燃焼を開始する温度に達し、バイパスダンパーを閉める時期です。

175℃以下 火力が弱いです。火力調節レバーで燃焼出力を上げるか、ストーブに薪を補給する時期です。

400℃以上 過剰燃焼です。火力調節レバーで給気量を減らし燃焼出力を下げてください。

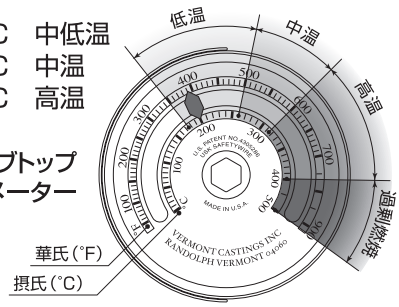


ポイント 正常な運転温度は200～400℃の間です。ストーブトップサーモメーターがこの範囲を示す様に火力調節レバーを操作してください。

注意 火力調節レバーを閉じる方向（左廻し）にしても火力が下がらない場合には点検が必要です。販売店にご相談ください。

温度目安

175～260℃ 中低温
260～315℃ 中温
315～400℃ 高温



お客様のストーブ設置状態により、火力調節レバーの位置と温度の関係は異なります。「薪の質」や「煙突のドラフト（上昇気流）の状態」などにも左右されます。ドラフトは煙突の長さ、種類、設置状況、地形、付近の障害物など様々な要因に影響されます。

ストーブを初めて使う際は、火力調節レバーの記録を取ることをお薦めします。特定の設定で一定の熱量を得る方法が分かります。1～2週間ほどで、個々の設定から得られる熱量と燃焼時間を判断できます。

煙突ダンパー設置

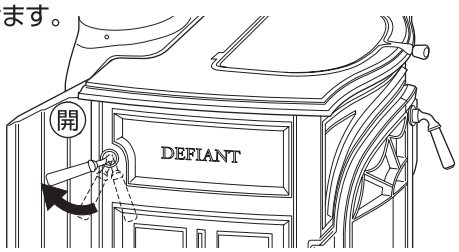
状況（煙突・薪・気温など）によって、ドラフトが強すぎる場合があります。煙突ダンパーはドラフトを適正に制御することが可能です。販売店にお問い合わせください。（22ページ参照）

薪の着火と燃焼維持

5 薪の補充

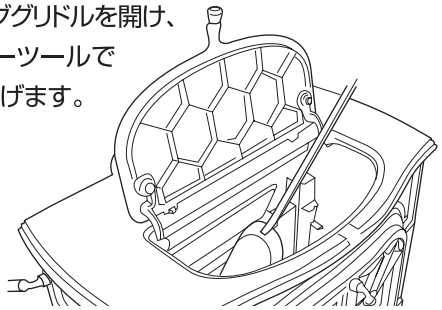
ポイント 着火に十分な赤い燃えさしがストーブ内に十分残っている間に薪を補充します。

1 バイパスダンパーハンドルを後方に押しダンパーを開けます。

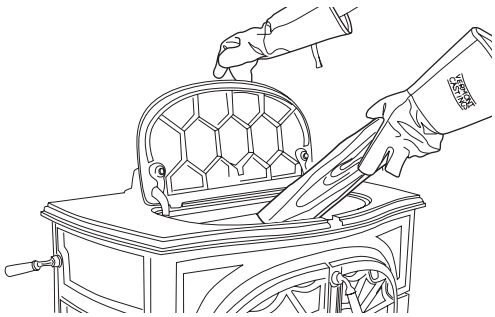


注意 バイパスダンパーを開けないと煙が逆流します。

2 クッキンググリドルを開け、ファイヤーツールでおきを広げます。

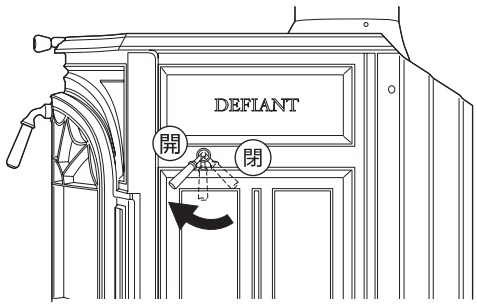


3 「中くらいの薪」をくべた上に「太い薪」を足します。こうすることによって、ストーブが燃焼温度をすばやく回復出来ます。

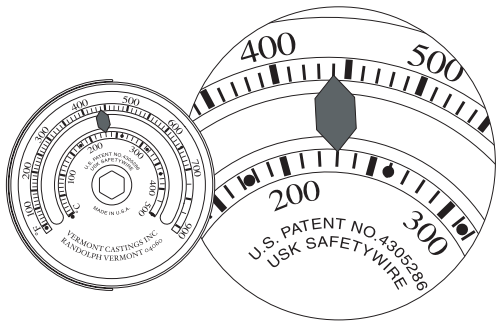


注意 ストーブ内に薪を一杯に詰めないでください。アンダイアンより上にならないようにしてください。
フロントドアを開放してご使用のときは、中ぐらいの薪なら3本、太い薪なら2本程度で必ずファイヤースクリーンを装着してください。

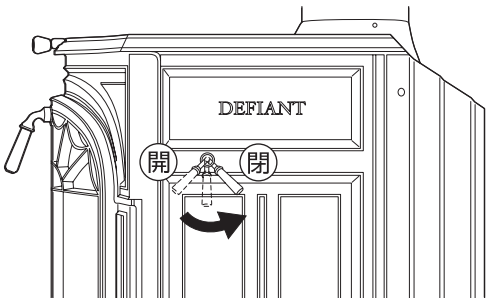
4 火力調節レバーを手前に引き開にします。



5 ストーブトップ・サーモメーターが230℃以上になったら、バイパスダンパーを閉めます。



6 火力調節レバーは「開」のまま、5～15分ぐらい燃やします。その後、火力調節レバーを調節します。火を強くするには、レバーを前方にします。弱く、長く保ちたい場合は、レバーを後方にします。



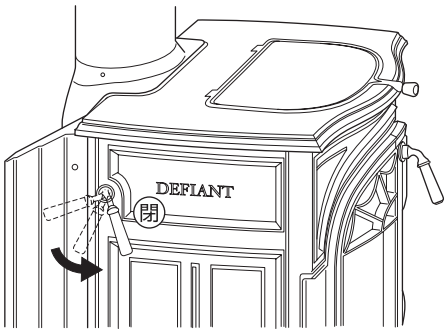
消火

薪ストーブは、ガスストーブや石油ストーブのように瞬時のうちに消火することはできません。薪が燃えつきた時が消火を意味します。
薪ストーブを消火する時は薪をくべるのをやめ、二次燃焼モードにし（ダンパーを閉じ）火力調節レバーを閉めます。燃焼空気の供給が少なくなり、火の勢いが徐々に落ち、ゆっくりと燃えつきます。

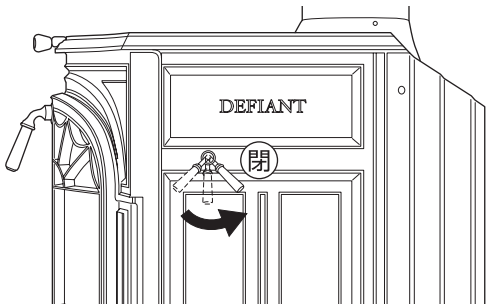
注意 ストーブ本体や炉室内に水をかけて消火するのは非常に危険です。また、このような急激冷却による消火はストーブ本体に重大な損傷をもたらします。

注意 燃焼空気の供給は完全に遮断されません。燃焼空気を遮断して消火する事は出来ません。燃えつきるには時間がかかります。

1 バイパスダンパーハンドルを手前に引きバイパスダンパーを閉じます。



2 火力調節レバーを後方にし閉めます。



灰の処理

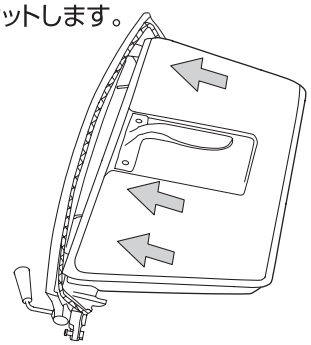
定期的に灰の除去をおこなうことは、ストーブの耐久性にも重要な作業です。灰受け皿の縁まで溜まる前に以下の手順に従って処理してください。また、数日ごとにグレートの灰をスコップや火かき棒で火格子からかき落とし、ストーブ内部の灰を取り除きます。

注意 危険ですから燃焼中は灰の処理を行わないでください。灰受ドアも開けないでください。

注意 ストーブが完全に冷えた状態で行ってください。

1 灰受けドアハンドルを右に回し、灰受けドアを静かに開きます。

2 付属の灰受けカバーを図のようにスライドさせ、灰受け皿にセットします。



3 灰受けカバーがしっかりとセットされていることを確認し、灰をこぼさないように灰受け皿ごと上に持ち上げます。

注意 この際、灰受け皿は前方に傾けないで下さい。灰受け皿が灰受けカバーから外れる場合があります。

注意 灰は火の気が完全に消えたことをご確認のうえ、不燃性の密閉できるフタの付いた灰取バケツに入れて、72時間以上おいてから処理してください。また、灰取バケツは必ず厚さ5cm以上の金属以外の不燃材の上に置いてください。可燃材の上に置くとバケツ底面の熱が伝わり、火災の原因となります。

薪の着火と燃焼維持

5 エアコントロールについて

設置方法がストーブ性能にどのように影響するかについては、24ページの「ドラフト管理」をご覧ください。ドラフトが過剰だと、ストーブ内が高温になり、燃焼室が破損する恐れがあります。一方、ドラフトが不十分だと部屋の中への煙の逆流（バックパフィング）が起きたり、煙突や燃焼室が「詰まる」恐れがあります。

ドラフトが過剰な場合の兆候としては、火力調節レバーで制御不可能な燃焼や、ストーブの一部が赤熱することが挙げられます。また、弱いドラフトの兆候としては、ストーブや室内煙突接合部からの煙の漏れ、弱火、ガラスの汚れなどが挙げられます。
断熱性能の高い住宅の場合、住宅内でストーブが十分な空気を得られず、ドラフトが弱まることがあります。その場合、住宅の風上側にあるストーブ付近の窓を開けることで、必要となる空気を取り入れるができます。またオプションの給気アダプターを使い、空気を戸外から直接ストーブに引き込むこともできます。

煙突ダンパー設置
状況（煙突・薪・気候）によって、ドラフトが強すぎる場合には煙突ダンパーを設置してドラフトを適正に制御することが可能です。
ドラフトの弱い煙突や機密の高い住宅、ストーブと同一の部屋に換気扇が設置してある場合など室内の気圧がマイナスになる状況では煙突ダンパーの設置は必要ありません。場合によっては排気が室内に流出し危険をともなう事があります。販売店にお問い合わせください。

Memo

ドラフト管理

6

ストーブは使用者、煙突、燃料、そして住宅などから構成されるシステムの一部です。
システムのあらゆる部分がストーブの作動状態を左右します。これらの要素がうまく調和して初めて全体のシステムが適切に機能します。

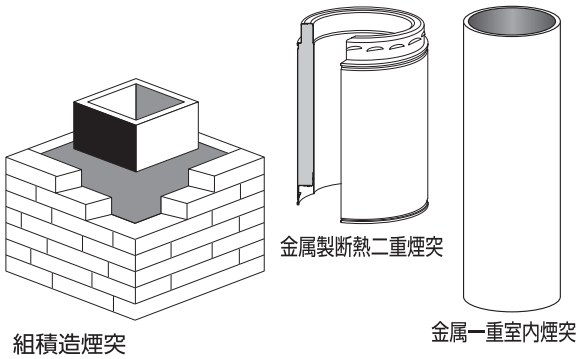
暖炉・薪ストーブの機能は自然のドラフト（上昇気流）で決まります。ドラフトは煙突のトップの外気温より、煙の温度が高い場合に生じます。その温度差が大きいほど、ドラフト作用も大きくなります。煙突内を煙が上昇するにつれて、燃焼用の空気をストーブに引き込む吸引力が生じます。

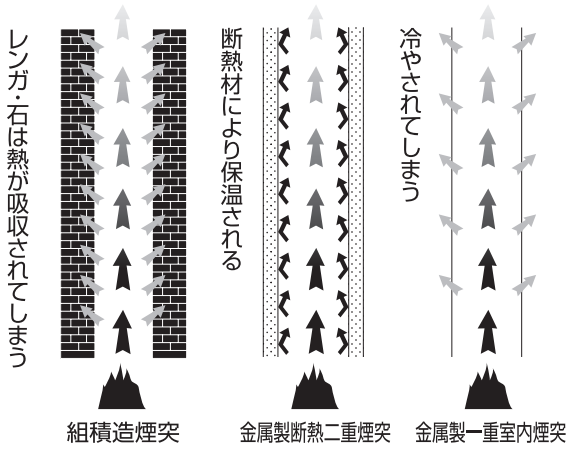
ストーブの給気口を全開にした状態にもかかわらず、燃焼速度が遅い場合はドラフトが弱い証拠です。給気口を開くことによって火が活発化する場合は、ドラフトが適切であることを意味します。ドラフトが弱い場合、給気口を開いてもストーブ内に空気を取り入れることが出来ず、火の調節は出来ません。

煙突の種類、煙突径や設置場所・外気温などによって、煙突は早く温まる場合もありますし、正常なドラフトが得られる温度に達するまで時間がかかる場合もあります。ストーブ内に入る空気量を制限する「気密性の高い」ストーブを正常に機能させるためには、煙突が煙を適切に保温する必要があります。煙突の種類によってこの効果は異なります。以下に特徴とその効果を挙げます。

●組積造煙突（石・レンガ等）

組積造煙突は欧米で長い間使われてきた煙突ですが、気密性の高い薪ストーブに使った場合、効果はあまり期待できません。石やレンガは性質上、大量の熱を吸収します。そのため、中を通る煙は冷却されるので、ドラフトを減少させてしまいます。このことは金属一重（シングル）煙突にもいえます。
煙突は大きいほど、温まるのに時間がかかります。戸外に設置された組積造煙突、特に大きめの物は、温めるのが非常に困難で、適切なドラフトを得られるだけの温度を維持することは困難です。





●金属煙突

工場生産された金属煙突の多くは、内側煙道に断熱材の層があり、この断熱材が煙を保温します。また、この断熱材は石やレンガより密度が低いので、金属煙突は組積造煙突より早く温まります。金属煙突は石やレンガより外観が劣りますが、効果はより優れています。現在は木造にて金属煙突に囲いを作り、表面にレンガタイルを張る等して、外観を組積造煙突風に仕上げる場合もあります。これも保温効果としては有効です。

●屋内／屋外の設置

煙突は煙を保温する必要があるため、できるだけ屋内を立ち上げるのが有効です。この方法は、住宅自体が煙突の断熱材の役割を果たし、屋外に熱を失うことがないため、より少ない熱量で煙突を温め、また保温することができます。

●煙突の高さ

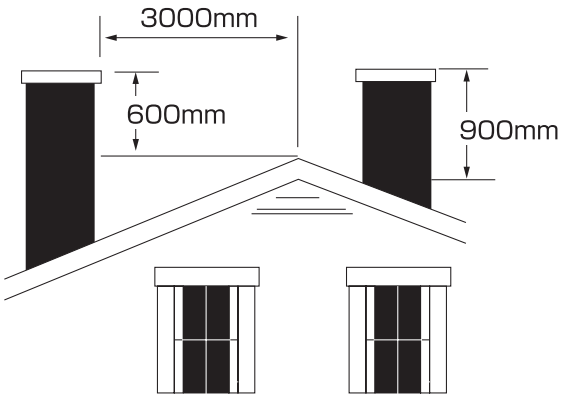
一般的に、高い煙突の方が低い煙突より、より良いドラフトを生むと考えがちですが、必ずしもそうとは限りません。煙突の高さが「600mm、900mm、3m煙突基準」の安全条件を十分満たしていれば、それ以上に高さを加えることはドラフト問題の正しい解決策ではありません。実際、問題を悪化させることもあります。煙突をさらに伸ばすことにより、熱源（ストーブ）から遠く離れた部分の煙を温めなければならないからです。安全基準を満たす必要がある場合やドラフトへのマイナス要因を回避する場合を除いて、煙突の高さは（最低5m）必要以上に伸ばさない方が良いでしょう。

●煙突径

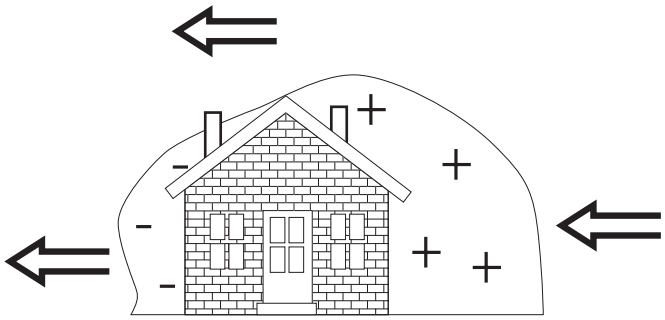
煙突の内側寸法は、ストーブの排気口寸法と一致しなければなりません。煙突が気密性のあるストーブに接続される場合、大きめの寸法は好ましくありません。それどころか、不利になる場合があります。煙は膨張により熱を失います。内径150mmの煙突を付けたストーブを250×250mmの煙道につなげると、ガスは本来の規模より3倍膨張します。この場合、煙が冷却され、ドラフトは弱まります。

●煙突のレイアウト

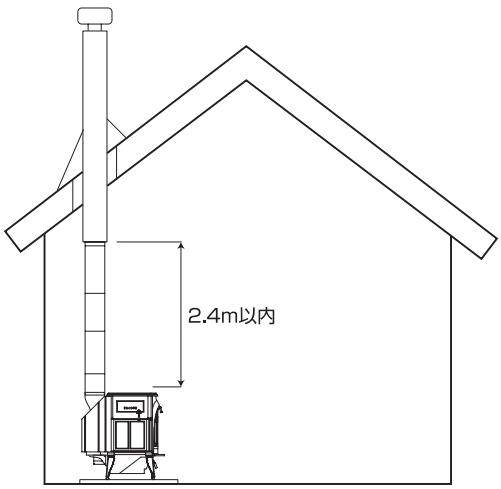
煙は煙突のトップまで上昇する過程で、曲がりがあるたびに速度が落ちます。理想的な煙突のレイアウトはストーブから垂直に真直ぐ伸ばす方法です。
室内煙突（シングル煙突）を使用する長さはストーブトップから2,400mmまでとします。これより長いと煙が冷却されドラフトが弱まり、またクレオソートの問題が生じます。



3m煙突基準



※風がふくと建物のまわりは圧力の差ができます。
煙突はこの風圧帯により上まで立ち上げる必要があります。



ドラフト管理

6

●単一排気

ストーブにはそれぞれ専用の煙突が必要です。気密性のあるストーブが他の開放型の暖炉やストーブの煙突に接続されている場合、煙突のドラフトは気密性の高いストーブ以外の別の経路から空気を引き込むため、効果が落ちます。ホースに穴が開いた電気掃除機を仮定すると、この状況をよく理解することができます。場合によっては、煙が逆流する恐れもあります。

●クレオソート

クレオソートは薪（特に湿った）がゆっくり燃焼した時に生じます。煙の濃度が高い、または排気の速度が遅く、煙が130℃以下に冷やされると、煙突内に蓄積する有機タールです。蓄積されたクレオソートは揮発性で、一定の温度以上に加熱されると煙突火災を発生させる恐れがあります。

煙突のドラフトを左右する全ての要素は、クレオソートの蓄積にも影響します。従って、正しい煙突レイアウトと燃焼操作で適切なドラフトを促し、クレオソートの発生を最小限に抑えてください。

●燃料

最適な方法でストーブが設置されていても、燃料の質が悪いと効果が出ません。最適な燃料は、12−18ヶ月間乾燥させた堅木です。軟木でもかまいませんが、堅木ほど火持ちが良くありません。

「乾燥させていない」薪は大量の水分を含んでいるため、熱量が薪に残る水分の除去に使われてしまいます。結果的に、暖房にまわる熱量が削減され、煙突内部の温度も上がらず、クレオソートの原因となります。薪用の水分計といったものもありますが、見た目や重量からも乾燥具合を判断することができます。乾燥させていない薪を1本持ち上げて重量を感じ取ります。乾燥した薪の重量は約2/3になります。この他、薪の切り口を観察します。乾燥するにつれて、収縮し、ひび割れが出てきます。ひびの入った薪ほど乾燥していることになります。

●バックパフィング（空気の逆流）

煙突のドラフトが炉内から燃焼ガスを引き出すより早い速度で、火が揮発性ガスを発生させた場合にバックパフィングが生じます。ガスは点火に十分な濃度と温度になるまで、火室内に待機します。ストーブがバックパフィングを起こした場合は、ダンパーを開けて煙を早く煙道へ送り、火室へ空気を入れ、大きな薪の使用を避けてください。火室の中の炎は常に鮮やかにゆらめいている状態に保ちます。煙が多く速度の遅い火は効率が悪く、煙突内にクレオソートを堆積させます。

●ドラフト試験

煙突ドラフトの簡単な試験方法は、ストーブのダンパーを閉め、気流が安定するまで数分待ってから、火力調節レバーを開け閉めして、火の強弱が調節できるかどうかを観察する方法です（火力調節レバーを操作してから、火の状態が変わるまで数分かかることもあります）。火が調節できない場合、ダンパーを閉めるタイミングが早く、まだドラフトが足りないのかもしれません。ダンパーをもうしばらく開けておき、ドラフトが強くなるまで待ちます。

燃焼状態の記録を取り、それぞれの燃焼状態とストーブ操作状態を関係付けていくと、お客様の設置状況に合った燃焼方法が見つかるでしょう。

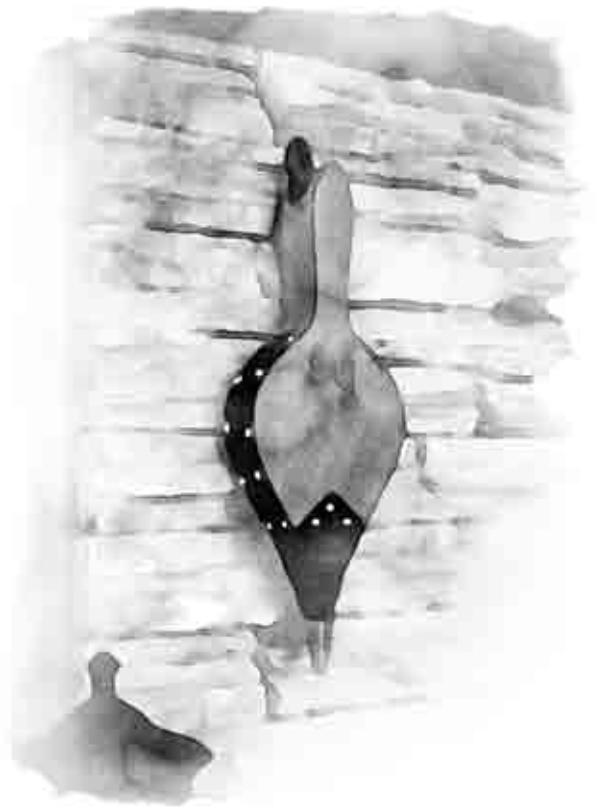
●負圧

最適なドラフトはストーブへの給気量にも関係します。煙突は自然に得られる空気だけを引き込むことができます。住宅の気密性が高く、ストーブへの給気が妨げられる場合や、室内空気を屋外に排出する他の設備（特にレンジ・フード、衣類乾燥機、機械換気設備のような動力駆動設備）がストーブと空気を取り合う場合、ドラフトの障害になります。ストーブ以外

のそうした設備の運転中に、ストーブが十分な空気を取り込めるのであれば問題はありません。近くの窓やドアを開けないと煙突が十分な空気を取り込めないのであれば、外気取り入れ口を増設したり、ダクトをストーブに継ぎ、燃焼空気を直接引き入れる必要があります。

●ドラフト管理

ストーブで薪を燃やすということは「機械的な機能」というより「使用者の技術」です。ストーブと煙突が適切に設置されていれば、後は技術（操作のタイミング）を向上させればストーブのシステム全体の機能はより高くなります。システムを構成する要素によってそれぞれ違う、ストーブの特性にあった適切な技術を得るために、燃焼状態の記録を取り、それぞれの燃焼状態とストーブ操作を関連付けていくと、より満足の行く効果を得ることができるでしょう。



メンテナンス

7 メンテナンス・スケジュール

ストーブ及び煙突を永くお使いいただくためには定期的なメンテナンスが必要となります。
下記のスケジュールに従って、継続的なメンテナンスを行っていくことをお薦めします。
また、メンテナンス項目の中にはストーブ販売店に依頼する内容も含まれておりますのでストーブ販売店名が記入されている保証書を大切に保管してください。

日常メンテナンス

お客様が日常ご使用の中で必要に応じて行います。		
点検項目	要領	方法
①ドアガラス清掃	煤・タールの除去／破損の有無	P29参照
②灰受け皿	溜まった灰の処理	P21参照
③ハンドル	ネジの点検	各ネジを点検し、緩んでいる場合には、増し締めを行う。
④耐火シューの空気孔	空気孔を塞いでいる灰の除去	ブラシ等で清掃する。38ページ参照

シーズン前点検（使用状況によりシーズン中の点検や調整・交換修理が必要になります。）		
お客様自身もしくはストーブ販売店にご依頼の上、毎年使い始めに行います。		
点検項目	要領	方法
①煙突の点検と掃除	煙突内部の煤・タールの除去	P41参照
②炉内部の掃除点検	内部の煤、タールの除去	P38～参照
③各部ファイバーロープ点検	はがれ・劣化等の点検	P31～33参照
④フロント・ドア調整	密閉度・位置の点検	P34参照
⑤灰受けドア調整	密閉度・位置の点検	P35参照
⑥バイパス・ダンパー調整	密閉度の点検	P36参照
⑦二次燃焼室点検	煤の除去／損傷・劣化等の点検	P38～40参照
⑧ドアガラス点検	煤・タールの除去／破損の有無	P29・30参照
⑨ストーブ表面塗装補修	サビ・塗装はがれの補修	P29参照
⑩レッグ（脚）、ヒートシールドの取付部	各ボルト、スクリュービスの緩みチェック	各ボルト、スクリュービスの増し締め
⑪ヒートシールド内側の清掃	ほこりの除去	取付ビスを外して清掃

シーズンオフ
春　ストーブの炉内に灰を残しておくと、湿気が溜まり、錆やすくなるのでシーズンの終わりにすべて取り除く。
夏　バイパス・ダンパーと火力調節レバーを全開のままにして、煙突内の空気を常に対流させておく。
秋　上記シーズン前点検

5年点検（本体のフル・メンテナンス）	
ストーブ販売店にご依頼の上、約5年に1度行います。	
下記、基本消耗パーツを中心に本体をフル点検。必要に応じ交換・補修を行います。	
基本消耗パーツ	品　番
セラミックファイバーボックス（二次燃焼室）	30002100
ダンパーハウジングアッセンブリー	30002856
ダンパー	30002816
セラミック耐火パネル・ロアー	30002840
セラミック耐火シュー	30002243
ガラス　左／右	1600064/1600062
内部パーツのファイバーロープ	
*図番はP42,43のパーツリストに対応しています。 *ご使用状態により、点検後、上記基本消耗パーツ以外でも交換が必要となる場合があります。	

＊上記は、取扱説明書に準じた適正な使用状態での標準メンテナンス・スケジュールとなります。
よって、お客様の使用状態によってはメンテナンス時期が異なる場合もあります。

薪ストーブ本体のお手入れ

注意 メンテナンスを行なう際は、必ずストーブが冷えた状態で作業を行なってください。また、安全の為、ゴーグルやマスク、グローブ等を着用してください。

●クラシックブラックのお手入れ方法

必要工具等
・ワイヤーブラシ・ウェス（布） ・耐熱塗料・ストーブポリッシュ

ワイヤーブラシで本体のサビを落とし、次に乾いた布で、本体全体のほこりや汚れを落とします。

注意 濡れた布を使うときは、ストーブ表面に水分が残らないように注意します。

＊ 塗装に劣化が見られる場合
専用の「耐熱塗料」で劣化部分または本体全体を塗装してください。

ポイント 部分塗装の場合、周囲の色と違いが出る場合がありますので、目立たない部分で試し塗りすることをお薦めします。また、ドア部分にスプレーする場合はドアガラスを取り外すなど、ガラス表面に塗料が付着しないようにご注意ください。その際、周囲にスプレーが飛び散らないようにダンボール等を敷いて行います。
塗装の補修には専用の「ストーブポリッシュ」（クラシックブラック専用補修磨き剤）もご利用いただけます。

●ホウロウ仕上げのお手入れ方法

必要工具等
・ウェス（布）・ガラスクリーナー・ホウロウ補修パテ ・ホウロウ補修液・サンドペーパー

柔らかな乾いた布で、本体全体のほこりや汚れを落とします。落ちにくい汚れは、専用の「ガラスクリーナー」を使用します。

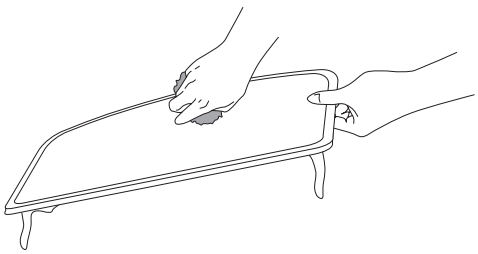
注意 研磨剤を使用した場合、表面を傷つける恐れがあります。

＊ ホウロウが剥がれてしまった場合
サビや汚れを取り除いた後、専用の「ホウロウ補修パテ」を塗り込みます。乾いたら細かいサンドペーパーで表面をならし、付属の「ホウロウ補修液」を塗って仕上げます。

●クッキンググリドルのお手入れ

必要工具等
・細毛ワイヤーブラシ ・スチールウール

黒ずんできたクッキンググリドルは、細毛ワイヤーブラシかスチールウールで磨いてください。

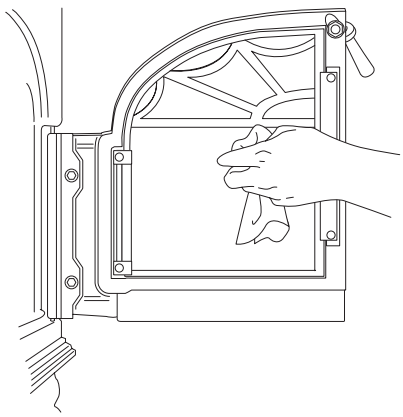


●ドアガラスのお手入れ

必要工具等
・ウェス（布）・ティッシュペーパー ・ガラスクリーナー

湿らせた布に別売りの専用「ガラスクリーナー」を付けて、汚れをよくふき取り、自然に乾かしてください。

ポイント 汚れが落ちにくいときはガラスにティッシュペーパーをあて、その上から直接ガラスクリーナーを付け、そのまましばらくガラスにティッシュペーパーを付着させておくと汚れが取れやすくなります。



メンテナンス

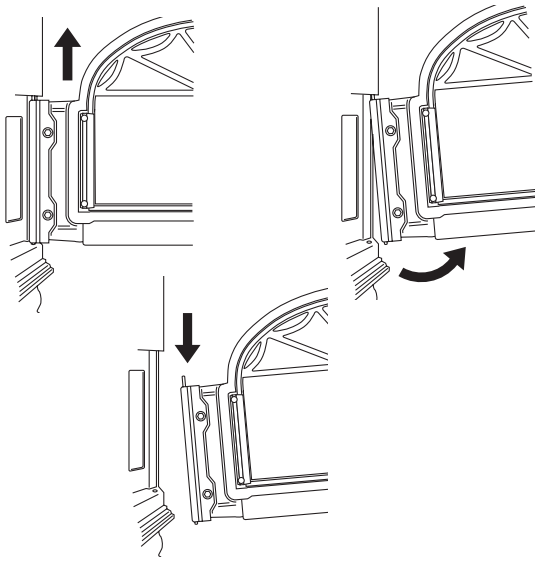
7 ドアガラスの交換

ドアガラスが破損した場合は、速やかに交換してください。

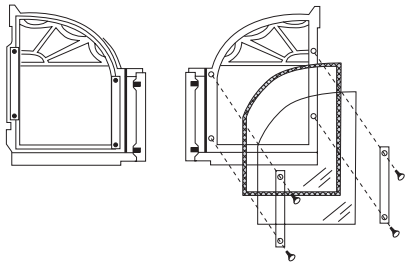
注意 必ずバーモントキャスティングス社の純正耐熱セラミックガラスをお使いください。その他の代用品は決して使わないでください。
ドアガラスの表側の面には赤外線反射コーティングが施されているため、左右の入替えはできません。

1 ドア下部のヒンジピンが穴から外れるまでドアを持ち上げ、次にドアの底を若干外側に傾けた後ドアを下に引き、上のヒンジピンを外します。

注意 外したドアは、表側が下になるようにし、表面にキズがつかないように毛布やダンボール等の上に置きます。ホウロウ色のドアには特に注意が必要です。特にドアの納まる上下部分に注意が必要です。



ポイント ガラスとドアの間にはファイバーロープまたはパッキンが付いています。ファイバーロープはガラスとドアの間がきっちり密閉できるように、柔らかくて弾力性がなければなりません。ファイバーロープが硬くなっている場合やほつれ等の劣化が見られる場合は交換が必要です。また、ファイバーロープではなく白いパッキンが付いている場合もあります。パッキンにくずれ等の劣化が見られた場合はファイバーロープに交換が必要です。



2 ガラスに注意をしながら、ガラスをおさえているクリップを外します。（ビス4本）

3 破損したガラスを丁寧に外します。

4 新しいガラスがファイバーロープに均一に当たるようにします。熱反射コーティング側がストーブの外側に向くようにし、クリップでガラスをおさえ、元のように取り付けます。

注意 クリップを取り付ける際、ビスを強く締めすぎるとガラスが破損する恐れがあります。

ポイント 熱反射コーティング側の見分け方
ガラスに天井の蛍光灯等を映すと、蛍光灯がぼやけて見える側と、はっきりと見える側があります。はっきりと見える側が熱反射コーティング側です。わかりづらい場合、晴れた屋外で対象物を変えながら行うと、より判別がしやすいでしょう。

5 フロントドアを本体に**1**の逆の要領で取り付けます。

必要部材

・交換用ガラス　品番1600064（左側）
　　品番1600062（右側）

必要工具等

・プラスドライバー

ファイバーロープの交換

薪ストーブの気密性を保つため、フロントドアやクッキンググリドル、灰受けドアなどの周囲には、ファイバーロープが使われています。使用に伴い、特に可動部分のファイバーロープは劣化し、効力が失われます。弾力性がなく、硬くなっている場合や、ほつれ等の劣化が感じられる場合は交換が必要です。

＊ ファイバーロープを使用しているパーツを下のイラストで示してあります。

※ファイバーロープ　サイズ／寸法（可動部分パーツ名称）

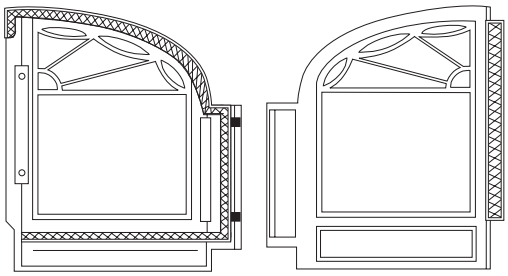
必要部材

・耐火セメントガスケット用（R77E）
・ファイバーロープ

必要工具等

・ワイヤーブラシ
・マイナスドライバー
・タガネ
・マスキングテープ

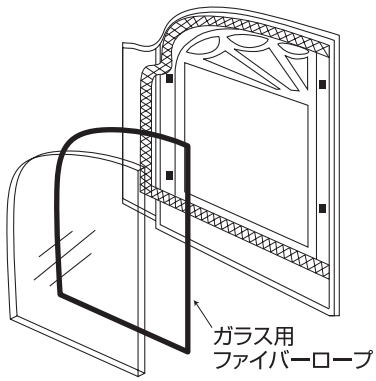
ドア部分



左　φ7.94㎜（R721）長さ120㎝

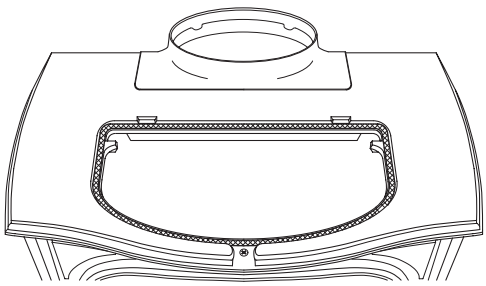
右　φ7.94㎜（R721）長さ90㎝

ガラス部分



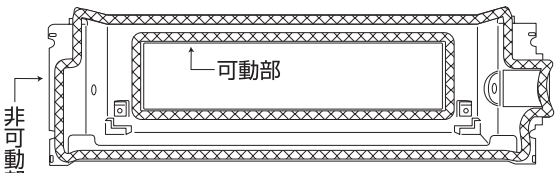
右　φ4.76㎜（81219）長さ110㎝
左　φ4.76㎜（81219）長さ110㎝

クッキンググリドル部分



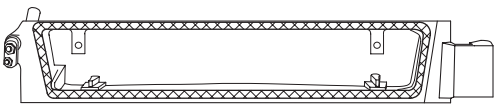
φ7.94㎜（R516GG）長さ132㎝

ダンパーフレーム部分



φ7.94㎜（R721）長さ110㎝（可動部）

灰受けドア部分



φ9.5㎜（R722）長さ125㎝

上記以外のファイバーロープは非可動部分同士に使用されており、消耗度合いは異なりますので、パーツ取外し時以外は基本的に交換は不要です。

メンテナンス

7 ファイバーロープの交換

1 劣化したファイバーロープの端をつかんで、強く引っ張り外します。（図1）

2 ワイヤーブラシかドライバーの先端を使って、残った耐火セメントやファイバーロープの破片を溝から取り除きます。頑固な耐火セメントは必要であればタガネを使って除去します。（図2）

注意 ホウロウ色の場合、ホウロウ部分の破損に注意して作業してください。

3 適切なサイズで規定の長さより5cm程長めのファイバーロープを用意し、溝に、約3mm厚で耐火セメントを注入します。（図3）

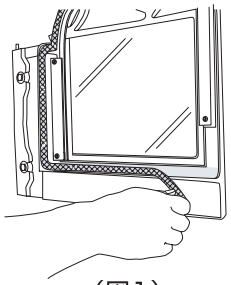
4 ファイバーロープを溝の一方から押込んでいきます。（図4）

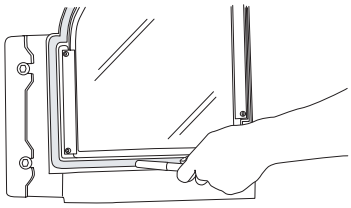
注意 弾力を持たせるため、ファイバーロープは強く伸ばさないようにしてください。

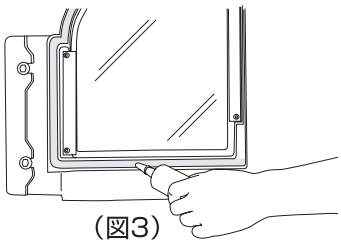
5 溝の終了部分のファイバーロープにマスキングテープを巻き、余分をカットして長さの調整を行います。（図5）

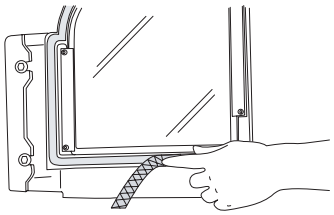
6 ドアを閉めて、該当する接触部分をファイバーロープにしっかりと密着させます。溝の周辺からはみ出した耐火セメントを取り除き、24時間以上常温で乾燥させます。

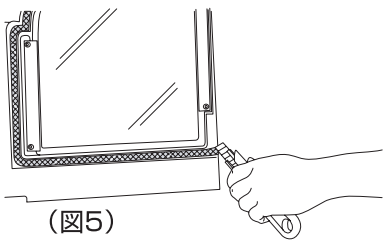
ポイント お使い始めや、ファイバーロープを交換した後、新しいファイバーロープがなじむまで、ドアハンドルやバイパスダンパーが正常に閉まるように調整します。数週間後に気密性をチェックし、必要に応じて再度調整をして下さい。


（図1）


（図2）


（図3）


（図4）


（図5）

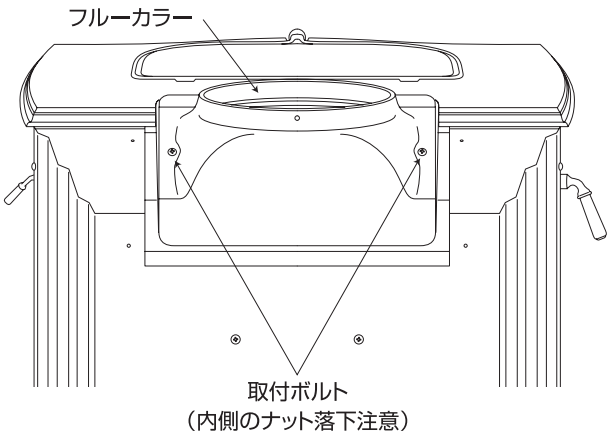
ファイバーロープの交換

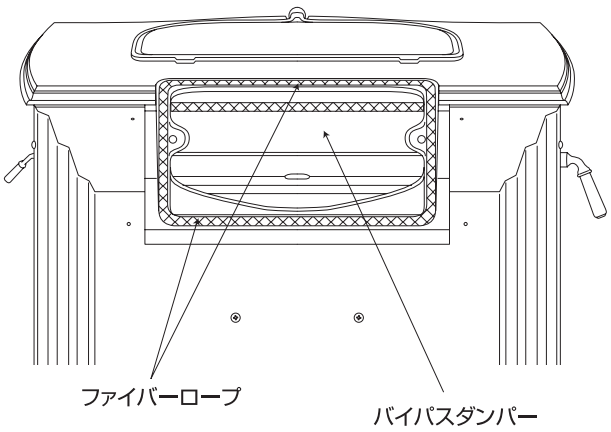
●バイパスダンパー部の ファイバーロープの交換について

バイパスダンパー部のファイバーロープは、フロントドアを開け、バイパスダンパーが開いた状態にし、ダンパー・フレーム周囲の裏側に付いているファイバーロープを手で触り、点検します。

交換する際は室内の自在煙突をスライドさせ、煙突を本体から外します。左右2箇所のボルト・ナットを外し、本体に付いている鋳物製のフルーカラー（煙突接続部）を取外し、この開口部から作業を行います。この時フルーカラーの付く本体の開口回りのファイバーロープも交換します。

注意 内側のナットを落下させないように注意してください。作業が困難な場合は販売店にご依頼下さい。





メンテナンス

7 ドアの調整（フロント）

密閉度テスト

定期的（シーズン前点検の際には必ず）に、密閉度テストを行います。密閉度が不十分であれば、ドアの調整が必要になります。紙をドアに挟んだ状態で閉めます。紙を引っ張り、楽に取れるようであれば、ドアの密閉度が不十分です。ドアの周囲全体に渡って行います。

ポイント ファイバーロープに弾力性がなく、硬くなっている場合やほつれ等の劣化が見られる場合はファイバーロープの交換が必要です。そのままお使いになると過剰に燃焼空気が入り火力コントロールができなくなります。過燃焼となり炉の中のパーツが歪んだりストーブの劣化を招くばかりでなく大変危険です。必ず実行してください。

必要工具

- コンビネーションレンチ11㎜
- 本体付属六角レンチ（大）

●フロント・ドア

ハンドル調整

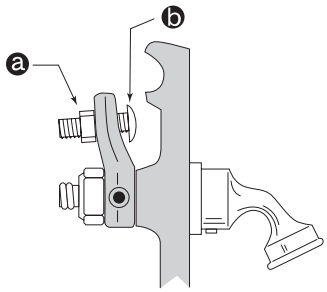
1. フロントドアを開け、ハンドル内側のスモールロックナットⓐをゆるめ、付属の六角レンチ（大）を使って六角穴付きボルトⓑを半回転させ、ドアを閉めたときのロックの強さを調整します。（図1）
2. 六角穴付きボルトⓑが回らないように押さえながらスモールロックナットⓐを締め直します。（図1）
3. 密閉度テストを行い、密閉度を確認します。不十分であれば再度調整します。（図2）

ドアヒンジ調整

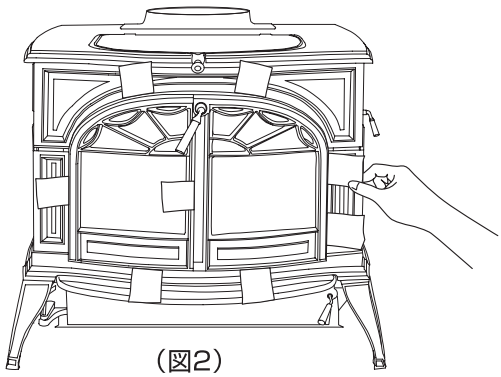
1. フロントドアを全開にし、内側のドアヒンジストリップに留めてある2箇所のボルトをドアが上下にかろうじて動くぐらいにゆるめます。（図3）
2. ドアと本体がファイバーロープでしっかり密着する位置に合わせ、両側のドアを閉めます。フロントドアフレームに六角穴付きボルトⓑがしっかりと掛かり、ロックできることを確認し、ボルトを増し締めします。

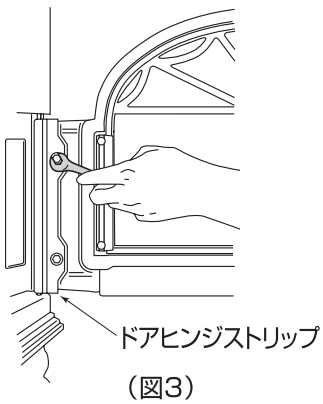
ポイント お使い始めや、ファイバーロープを交換した後、新しいファイバーロープがなじむまで、ドアハンドルやバイパスダンパーが正常に閉まるように調整します。数週間後に気密性をチェックし、必要に応じて再度調整をして下さい。

3. 密閉度テストを行ない、密閉度を確認します。不十分であれば再度調整します。



（図1）


（図2）



（図3）

●灰受けドア

注意 灰受け皿を取り外した状態で作業を行ってください。

灰受ドアハンドル調整

1 灰受けドアを全開にし、灰受ドアハンドル内側のスモールロックナットⓐをゆるめ、六角レンチ（大）を使って六角穴付きボルトⓑを半回転させ、ドアを閉めたときのロックの強さを調整します。（図1）

2 六角穴付きボルトが回らないように押さえながらスモールロックナットを締め直します。（図2）

3 密閉度テストを行ない、密閉度を確認します。不十分であれば再度調整します。（図3）

ドアヒンジ調整

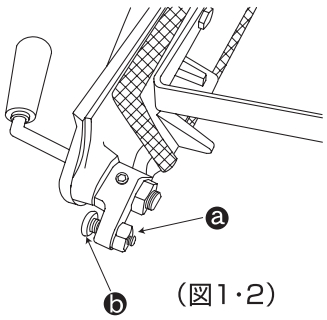
1 灰受けドアを閉めハンドルのロックが確実にされていることを確認します。（図4）

2 灰受けドアのヒンジは、本体正面の向かって左側のボトム（底板）にボルト3箇所（下側）で固定されています。この3箇所のボルトを灰受けドアが軽く動くぐらいにゆるめます。（図5）

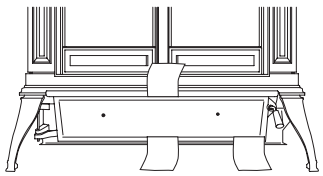
3 灰受けドアと本体がファイバーロープでしっかり密着する位置に合わせ、3箇所のボルトを増し締めします。（図6）（図7）

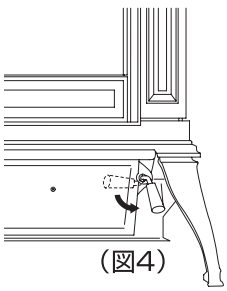
4 灰受けドアのヒンジ上側を固定しているボルト2箇所（上側）をゆるめることで、より正確に調整することができます。（図5）

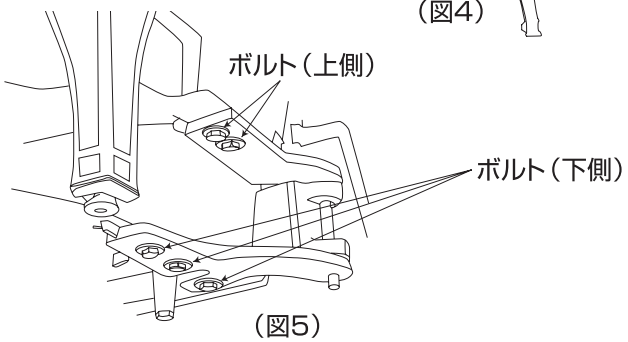
5 密閉度テストを行ない、密閉度を確認します。不十分であれば再度調整します。（図3）



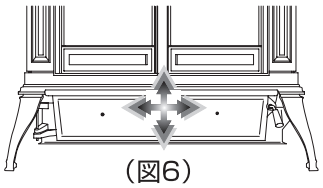
（図1・2）

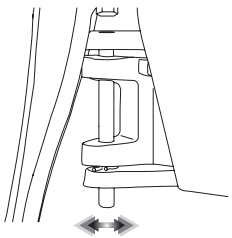

（図3）


（図4）



（図5）


（図6）


（図7）

メンテナンス

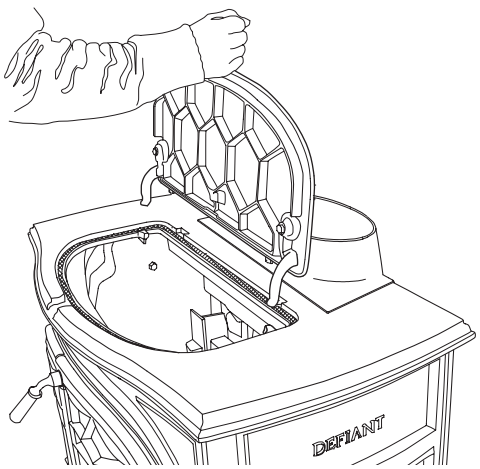
7 バイパスダンパーの調整

密閉度テスト

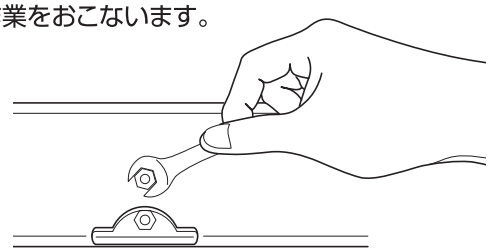
定期的（シーズン前点検の際には必ず）、密閉度テストを行います。その結果、密閉度が不十分であれば、ダンパー・フレームにあるファイバーロープに加圧するために、ダンパー・ロッドとバイパスダンパーの当たりを調整します。紙をダンパーに挟んだ状態で閉めます。紙を引っ張り、楽に取れるようであれば、ダンパーの密閉度が不十分です。ダンパーの周囲全体に渡って行ないます。

必要工具

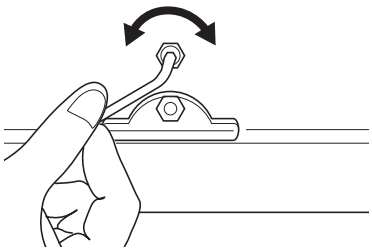
・コンビネーションレンチ11㎜
・本体付属六角レンチ（小）



1 クッキンググリドルを垂直近くまで開け、そのまま上に持ち上げ、取り外します。この開口部から作業をおこないます。

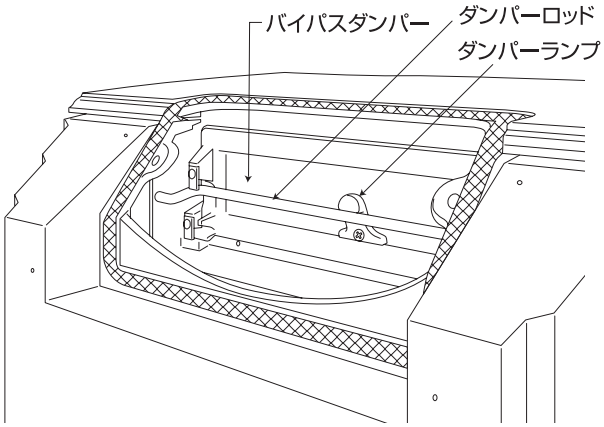


2 バイパスダンパー中央にあるロックナットをゆるめます。



3 圧縮ネジを六角レンチで回転させます。時計方向に回すときつくなります。

ポイント 圧縮ネジ、ロックナットがサビ等により固着している事があります。浸透性のある潤滑剤をあらかじめスプレーしてから注意して廻してください。



4 ロックナットを締め直し、バイパスダンパーの閉まり具合、ダンパーランプとダンパーロッドの当たり具合をテストします。

ポイント しばらく使用しているとファイバーロープが圧縮され、多少、閉まり具合がゆるくなってきますので、その際にはしっかり閉まるように再調整してください。

ポイント ダンパーロッドの当たりを目視するには、室内自在の下の煙突を上方へスライドさせ、煙突をフルーカラーから外します。開口部からバイパスダンパーの裏側にある、ダンパーロッドとダンパーランプを確認することができます。

アンダイアンの調整

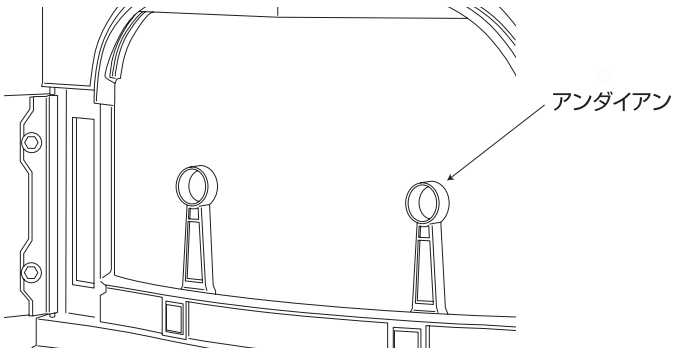
アンダイアンは燃焼中の薪が手前にこぼれ落ちてくるのを防ぐため、常に定位置に差し込んでおきます。

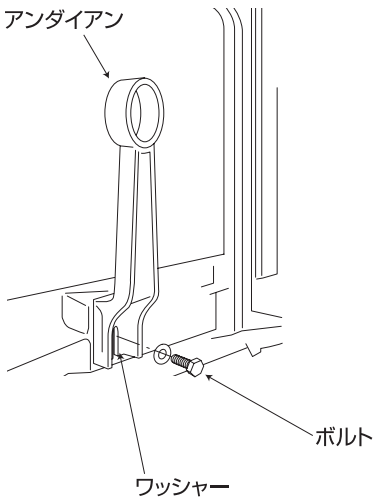
アンダイアンは裏側の根元がボルトとワッシャーで位置決めされていますので、確実にボルトを締めてください。

ポイント 炉内のネジ類を回す時には十分な注意が必要です。過度な力により、高温にさらされ劣化したボルトが破損する恐れがあります。
潤滑剤を十分に浸透させてから作業を行って下さい。定期的に耐熱グリスを塗っておくと安心です。

必要工具

・ボックスレンチ11㎜





メンテナンス

7 二次燃焼室の点検清掃

シーズン前点検等の際や、煙突から黒い煙が出る、煙突がすぐつまる、バイパスダンパーを閉めると火が消えてしまう等の症状が出たときは、二次燃焼室を点検します。

必要工具等

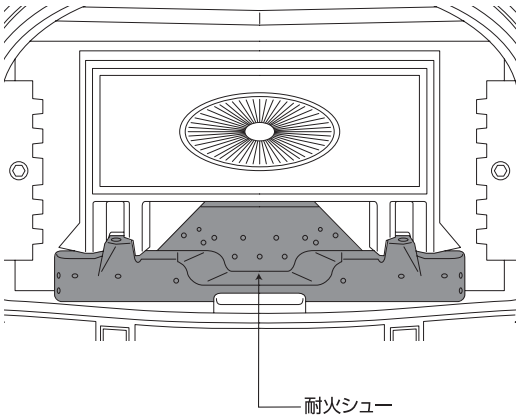
- プラスドライバー
- ボックスレンチ11mm
- 本体付属六角レンチ
- 掃除機
- 懐中電灯

耐火シューの清掃

1 フロントドアを外します。
（30ページ参照）

2 アンダイアンを外します。
（37ページ参照）

3 炉の正面下部にある、耐火シューを点検し、ブラシで清掃します。空気孔に詰まりがないか確認します。空気孔がふさがっている場合は、細い棒を使って貫通させてください。破損がある場合には交換してください。（40ページ参照）



4 逆の手順で組み立てます。

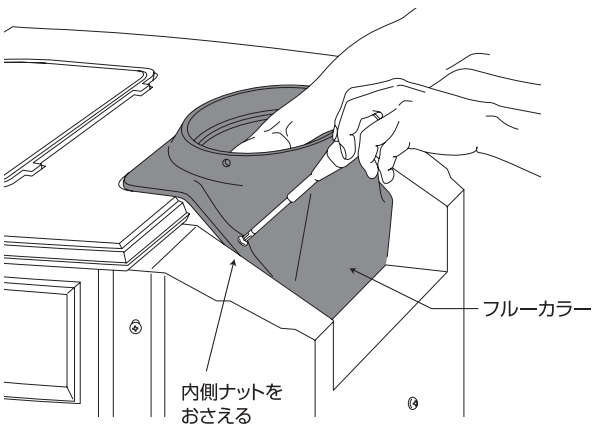
注意 耐火シューは気密のためガスケットの上に置かれています。位置をずらすとガスケットが破損しますので、絶対に動かさないでください。

二次燃焼室の清掃

煙突側からの清掃（煙突掃除の際に行ってください。）付属の専用ホースと保護板をご用意ください。

1 室内の自在煙突をスライドさせて、ストーブから煙突を外します。

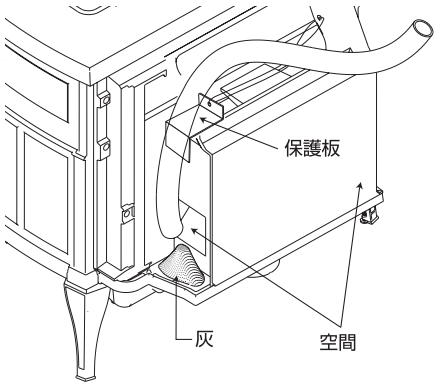
2 フルーカラーを取り外します。ボルトを外すときにナットが本体内部に落下しないように注意してください。



3 左右の内部の汚れを確認します。二次燃焼ボックスが破損している場合には交換してください。
（39ページ参照）

4 電気掃除機のホースに付属の専用ホースを取り付けてください。

5 二次燃焼室が破損しないように、角の部分に付属の保護板を当て、空間にホースを差し込み溜まった灰を吸い込みます。左右両方とも行います。



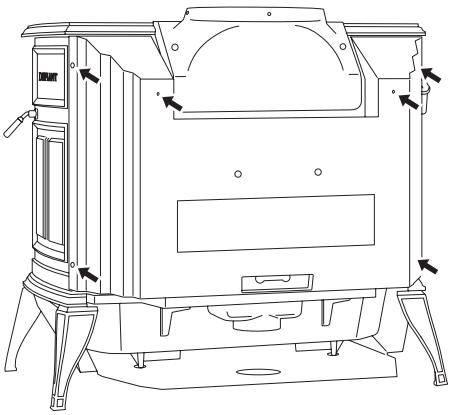
6 ホースと保護板を外して逆の手順で組み付けてください。

二次燃焼室の取り外し。点検／交換

1 フロントドアを外します。
（30ページ参照）

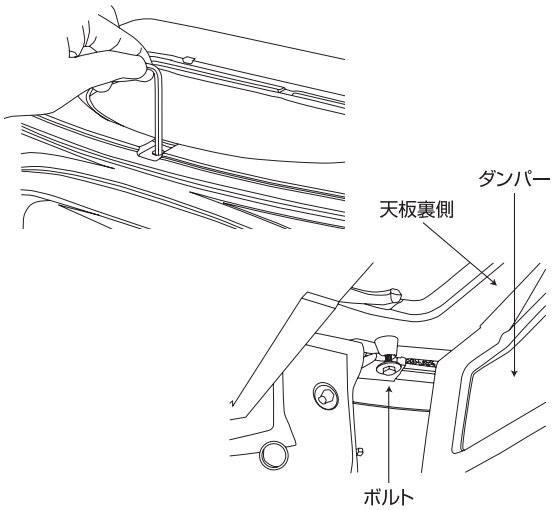
2 アンダイアンを外します。
（37ページ参照）

3 リアヒートシールドを止めているスクリュービス（6本）をゆるめ取り外します。



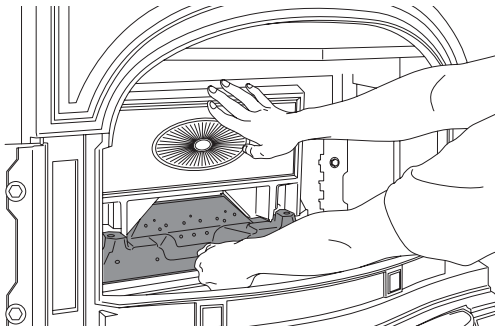
4 フルーカラーを取り外します。ボルトを外すときにナットが本体内部に落下しないように注意してください。（38ページ参照）

5 中央部手前のボルトと、両サイド内部側から止めてあるボルト（合計3本）をゆるめてトッププレートを外します。



6 グレイトを取り外します。

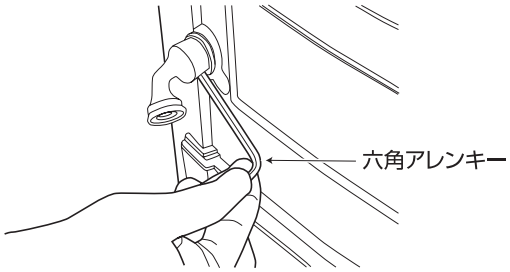
7 耐火シューを引き出します。空気孔がふさがっている場合には、細い棒を使って貫通させ、汚れを取り除きます。



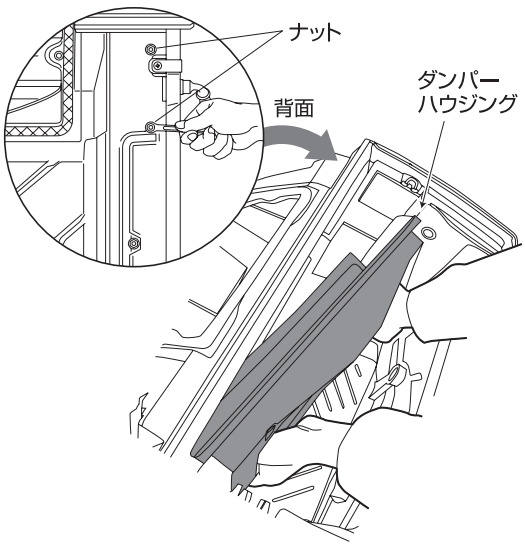
メンテナンス

7 二次燃焼室の点検清掃

8 ダンパーハンドルをダンパーロッドに固定している、六角穴付きボルトをゆるめて外します。

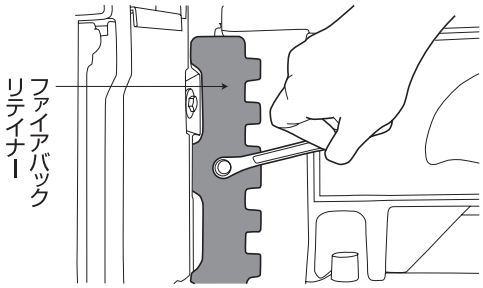


9 ダンパーハウジングを外します。ダンパーハウジングを止めているボルト（4本）は炉内側から背面に貫通してナットで固定されています。背面のナットをゆるめてください。このときに右側の上のボルトを最後に外します。（落下防止の突起が利用できます。）外すときにダンパーハウジングを押さえて落下に気をつけてください。

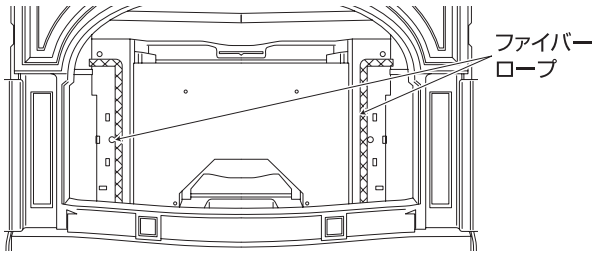


注意 ダンパーロッド左側にスペーサーとワッシャーが付いています。紛失しないように注意してください。ダンパーロットにゆがみ等がある場合には交換してください。

10 二次燃焼室を止めている、左右のファイアバックリテイナーを外します。



11 ロアー耐火パネルと、二次燃焼室（ファウンテンアッセンブリー）を注意深く取り出します。



二次燃焼室と二次燃焼室の設置されていた炉内部を清掃します。壊れやすいので注意してください。
点検し破損があれば交換してください。
また、ロアー耐火パネルと接する炉内左右のファイバーロープやフルカラー、トッププレート、ダンパーハウジングのファイバーロープを点検し、劣化しているようでしたら交換してください。
さらに、ボルト、ナット、大小ワッシャーが劣化している場合には、新しいものと交換してください。

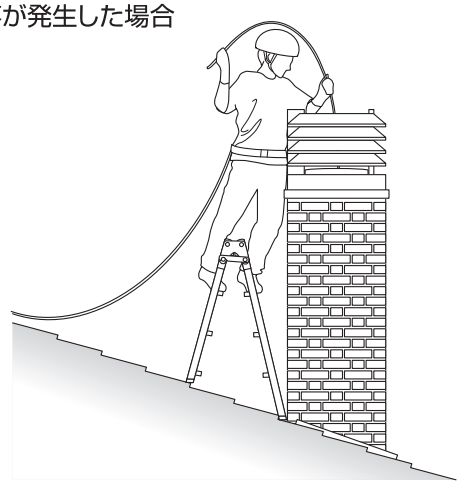
清掃または交換した二次燃焼室を戻します。
耐火シューの底部に新しいガスケットを貼り付けてから元の位置に戻します。
逆の手順で組み立てます。

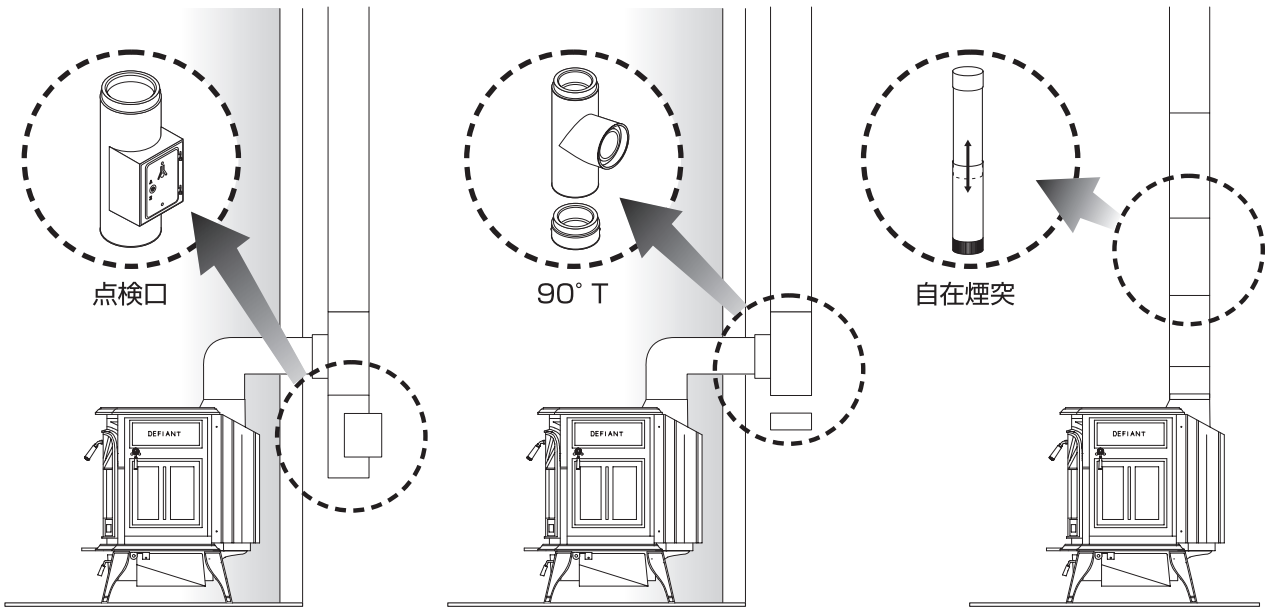
注意 グレートには耐火シューをおさえる突起があります。耐火シューを奥まで十分に押し込んでからグレートを取り付けてください。

煙突の点検と掃除

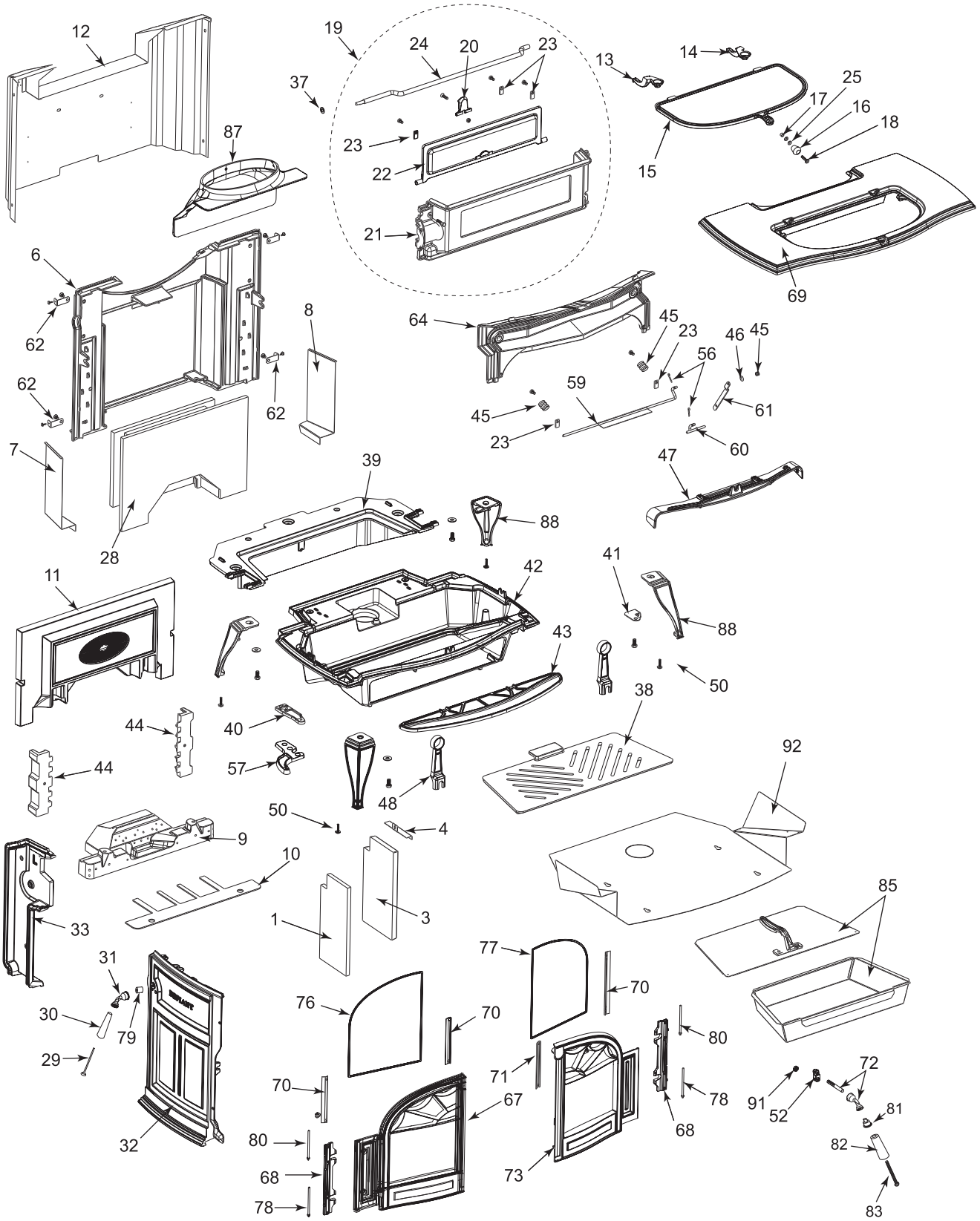
煙突の点検と掃除は一般的にストーブシーズンに入る前に行います。本体と煙突の各部分を詳細に点検します。煙突内部のスス、タールなど堆積物や鳥の巣などの閉塞物を取り除きます。掃除の目安は堆積物が3ミリメートル以上です。状況によってはシーズン中の掃除が必要になる場合もありますので、設置してからの数年は汚れ等の状況を把握するためにこまめに点検を行ってください。

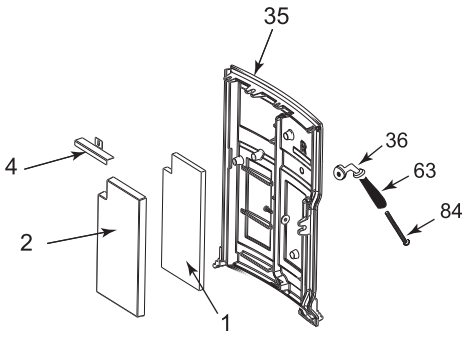
- ●本体と煙突、煙突どうしの接続部がネジ、バンド等で隙間なく固定されているか確認してください。
- ●煙突の内部を点検することのできる煙突部材（自在煙突、90°T、点検口）からの堆積物の状態を確認してください。お客様により設置状況が異なりますのでお買い求めの販売店へご確認下さい。
- ●煙突内堆積物の確認にあわせて鳥の巣等による、煙突のつまり、煙突トップのつまりを点検してください。
- ●点検後、清掃、修理を適切に行ってください。不明な点は販売店にお問い合わせください。
- ●点検または煙突掃除のために開閉する点検口や90°T型煙突のプラグは、作業後にしっかりと閉鎖し固定されているか確認してください。
- ●本体、煙突は清掃後に外部、内部とも点検を行い、損傷・亀裂・劣化が確認された場合は使用を止め、直ちに販売店へ連絡し、修理を依頼してください。
- ●次の場合には必ずお買い求めの販売店へ点検を依頼してください。
  - ・煙突火災や異常燃焼が発生した場合
  - ・暴風雨または地震等の天変地異が発生した場合
  - ・本体、煙突に損傷を及ぼす可能性がある他の出来事が発生した場合

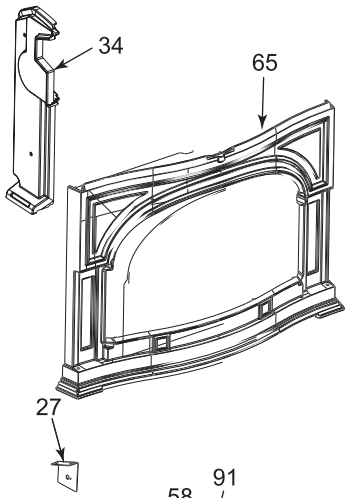


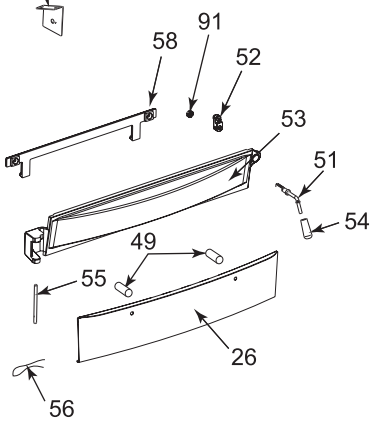


パーツリスト


12
19
24
20
23
13
14
37
25
17
16
18
87
23
22
15
21
69
6
8
64
45
23
46
45
62
56
62
59
61
62
45
23
60
7
47
39
88
28
41
11
42
88
43
50
38
44
40
92
44
57
48
50
4
9
10
85
33
1
3
77
31
70
76
70
30
79
80
29
71
72
70
67
78
91
52
81
68
32
80
82
68
73
78
83







ビス・ボルト等パーツリストに含まれない部品があります。
詳細については販売店にお問い合わせください。

図番	品　番	品　　名
1	30002846	サイドインシュレーション
2	30002847	ライトサイドブリック
3	30002848	レフトサイドリフラクトリー
4	30002480	ブリックサポートブラケット
6	30002833	バック
7	30002442	レフトヒートディフレクター
8	30002441	ライトヒートディフレクター
9	30002243	耐火シュー
10	30002864	シューガスケット
11	30002840	ファイアバック
12	30002839	アウターバック
13	30002399	レフトグリドルクアドラント
14	30002401	ライトグリドルクアドラント
15	30002822	グリドル
16	1600657	グリドルハンドル
17	1600070	グリドルハンドルスペーサー
18	1200907	グリドルハンドルボルト
19	30002856	ダンパーハウジングアッセンブリー
20	1300643	ダンパーランプ
21	30002821	ダンパーハウジング
22	30002816	ダンパー
23	1601488	ダンパータブ
24	1600065	ダンパーロッド
25	1201895	グリドルハンドルブッシュング
26	1401911	アッシュドアヒートシールド
27	30002863	リーアスタートブラケット
28	30002100	ファウンテンアッセンブリー
29	1201310	ダンパーハンドルスクリュー
30	1600644	ダンパーハンドル
31	30002720	ダンパーハンドルベースアッセンブリー
32	30002832	レフトサイド
33	30002818	レフトエアマニフォールド
34	30002817	ライトエアマニフォールド
35	30002831	ライトサイド
36	30002716	サーモスタットハンドルベースアッセンブリー
37	1202560	ワッシャーダンパーロッド
38	30002820	グレート
39	30002838	インナーボトム
40	30002836	トップアッシュドアーヒンジ
41	30002844	ドアハンドルブラケット
42	30002829	ボトム
43	30002811	アッシュリップ
44	30002815	ファイアバックリテイナー
45	1201846	フリクションスプリング
46	1202471	ワッシャーフリクションスプリング/サーモハンドルリンケージ
47	30002819	エアプレート
48	30002827	アンダイアン
49	1201781	コントロールスペーサー
50	1201745	レッグレベラー
51	1600622	アッシュ ドアハンドルシャフト
52	5004025	ドアラッチアッセンブリー
53	30002810	アッシュドア
54	1600663	アッシュドアハンドル（木）
55	30002826	アッシュドアヒンジロッド
56	30001749	コッターピン　アッシュドア
57	1300642	アッシュドアボトムヒンジサポート
58	30001908	アッシュパンブラケット
59	30002849	プライマリエアフラップ
60	30002841	プライマリエアシャフト
61	30002842	エアリンケージ
62	30002845	リアサイドブラケット
63	1600660	サーモスタットハンドル
64	30002814	エアウォッシュマニフォールド
65	30002830	フロント
67	30002813	レフトドア
68	1300645	ドアヒンジストリップ
69	30002834	トップ
70	30001715	ガラスクリップ
71	30001716	ガラスクリップ（ライトドアのみ）
72	30002717	フロントドアハンドル&シャフト
73	30002812	ライトドア
76	1600064	レフトドアガラス
77	1600062	ライトドアガラス
78	30002727	ロアドアヒンジピン
79	1201779	スペーサー（ダンパーロッド用）
80	30002727	アッパードアヒンジピン
81	30002714	ハンドルベーススタブ
82	20006381	セラミックハンドル
83	1201294	ハンドルボルト
84	1201243	サーモスタットハンドルボルト
85	30001690	アッシュパンアッセンブリー
87	30001576	フルーカラー
88	30002835	レッグ
91	1203290	ヘックスヘッドジャムナット
92	30002843	ボトムヒートシールド

トラブルシュート

9

トラブル	原因	解決策
薪が燃えない	薪は十分に乾燥していますか?	十分に乾燥した薪を使用してください。もし十分に乾燥した薪が入手困難な場合は、できるだけ細かく割って使用してください。薪については「薪について」（14ページ）をご参照ください。
	最初から太めの薪をくべていませんか?	焚き始めは細い薪に着火し、序々に太い薪をくべてください。燃焼については「焚き方（18ページ）」をご参照ください。
	火力調節レバーを閉じていませんか?	火力調節レバーを全開にしてください。
	煙突の中が煤でつまっていませんか?	煙突の中に煤が3mm以上付着している場合は、煙突の掃除をしてください。煙道火災を防ぐ為にも定期的な点検及び、メンテナンスが必要です。
	煙突が冷えていませんか?	煙突が冷えていると上昇気流が弱いので、燃えにくい場合があります。煙突を暖める強制的な上昇気流のおこし方については「薪の着火と燃焼維持」17ページをご参照ください。
	バイパスダンパーを閉めるタイミングが早くありませんか?	クッキンググリドルの表面温度が230℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを閉めてください。詳しくは18ページの⑧をご参照ください。
	換気扇を使用していませんか?	換気扇使用中に新ストーブを焚くと、煙突内の上昇気流力が弱まり、燃えにくい場合があります。ご使用をおやめになり、お買い上げの販売店へご相談ください。
バイパスダンパーを閉めると火が消えてしまう	バイパスダンパーを閉める温度は適切ですか?	クッキンググリドルの表面温度が230℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを閉めてください。詳しくは18ページの⑧をご参照ください。
	二次燃焼室つまっていませんか?	二次燃焼室の点検については「メンテナンス」の二次燃焼室の点検をご参照ください。
薪が早く燃えすぎ	バイパスダンパーを開けたまま焚いていませんか?	クッキンググリドルの表面温度が230℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを閉めてください。詳しくは18ページの⑧をご参照ください。
	火力調節レバーを全開のまま焚いていませんか?	火力調節レバーで火力を調節してください。
	火力のない古い薪や腐った薪、火持ちの悪い軟木や細い薪を使用していませんか?	くべる時は、適度に乾燥した火持ちのよい堅木の薪や太い薪を使用してください。
	灰受けドアを開けたまま焚いていませんか?	灰受けドアを開けたまま燃焼させると、隙間から空気が入ってしまい、薪が早く燃えてしまいます。過燃焼や損傷の原因にもなりますので、灰受けドアが閉まっていることを確認の上、ご使用ください。
	クッキンググリドルやフロントドア灰受けドアのファイバーロープが消耗し、空気をすいこみすぎていませんか?	消耗していれば新しいファイバーロープに取り替えてください。取り替え方法については31ページ「メンテナンス」のファイバーロープの交換をご参照ください。
	煙突は長すぎませんか?	煙突が長すぎると上昇気流が強すぎ、必要以上に燃えてしまいます。煙突ダンパーの設置をおすすめします。詳しくはお買い上げの販売店へご相談ください。

煙が逆流する	バイパスダンパーを閉めたまま、クッキンググリドルやフロントドアを開けていませんか?	バイパスダンパーを開けたことを確認してから、クッキンググリドルやフロントドアを開けてください。
	換気扇を使用していませんか?	換気扇使用中に新ストーブを焚くと、煙突内の上昇気流力弱まり、煙が逆流する場合があります。ご使用をおやめになり、お買い上げの販売店へご相談ください。
	煙突の中が煤でつまっていませんか?	煙突の中に煤が3mm以上付着している場合は、煙突の掃除をしてください。
	煙突トップ付近で強風がふいていませんか?	強風により、煙が逆流する場合があります。 ※詳しくはお買い上げの販売店へご相談ください。
	曲がりの多い、あるいは横引き部分が長い煙突設置ではありませんか?	曲がりが多い、あるいは横引き部分が長い煙突設置では煙の流れが悪くなります。その結果、煙突が冷えやすく、煤もたまりやすくなります。煙突を十分に暖めてからご使用ください。煙突の暖め方は17ページ「薪の着火と燃焼維持」をご参照ください。改善されない場合、お買い上げの販売店へご相談ください。
	室内に、燃焼に必要な空気は十分にありますか?	高気密住宅では、燃焼に必要な空気が不足する場合があります。窓などを開けて空気を取り込むか、専用の給気アダプターを取り付けてください。※詳しくはお買い上げの販売店へお問い合わせください。
	煙突は短かすぎませんか?(5m未満)	煙突の高さ5m未満の場合、上昇気流が弱く室内に煙が逆流してしまうことがあります。詳しくはお買い上げの販売店へご相談ください。
ドアガラスがひどく曇る	火力調節レバーをしぼるタイミングが早すぎませんか?	低温度域で火力調節レバーをしぼると、不完全燃焼になりクレオソートや煤が発生しやすくなります。十分に暖まってからバイパスダンパーを閉め、火力調節レバーを調節してください。火力調節レバーをしぼるタイミングについては18ページ「薪の着火と燃焼維持」をご参照ください。
	バイパスダンパーを閉めるタイミングが早くありませんか?	クッキンググリドルの表面温度が230℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを閉めてください。
	フロントドアが少し開いていませんか?	フロントドアをきちんと閉めてください。
	クッキンググリドルやフロントドアのファイバーロープが消耗し、空気をすいこみすぎていませんか?	消耗していれば新しいファイバーロープに取り替えてください。取り替え方法については31ページ「メンテナンス」のファイバーロープの交換をご参照ください。

トラブルシュート

9

煤が煙突に つまりやすい	乾燥が不十分な薪を使用していませんか?	十分に乾燥した薪が入手困難な場合は、できるだけ細かく割って使用してください。薪については14ページ「薪について」をご参照ください。
	二次燃焼室がよごれていませんか?	二次燃焼室の点検については「メンテナンス」の二次燃焼室の点検をご参照ください。
	屋外でシングル煙突を使用していませんか?	屋外でシングル煙突を使用すると、外気の影響により冷えやすく、煙突の中が結露する原因となります。その結露に煤が付着すると、煙道火災、煙の逆流、煙突内部のよごれの原因となりますので、断熱二重煙突に交換してください。 ※詳しくはお買い上げの販売店へご相談ください。
	焚く温度が低すぎませんか?	低温度域で使用すると、不完全燃焼になりクレオソートや煤が発生しやすくなります。通常薪ストーブを焚く時は175℃以上でご使用下さい。使用温度域については19ページ「薪の着火と燃焼維持」をご参照ください。
	バイパスダンパーを閉めずに火力調節レバーをしぼっていませんか?	バイパスダンパーを開けたまま燃焼させると、二次燃焼材能を働かせることができず、未燃焼物が多くなり煙突に煤がつきやすくなります。バイパスダンパーを閉め、十分に暖まってから火力調節レバーをしぼってください。燃焼については20ページ「薪の着火と燃焼維持」をご参照ください。
	曲がりが多い、あるいは横引き部分が長い煙突設置ではありませんか?	曲がりが多い、あるいは横引き部分が長い煙突設置では煙の流れが悪くなります。その結果、煙突が冷えやすく、煤もたまりやすくなります。煙突を十分に暖めてからご使用ください。煙突の暖め方については17ページ「薪の着火と燃焼維持」をご参照ください。
温度が上がらない	十分に乾燥していない薪、火力のない古い薪や腐った薪、太すぎる薪を使用していませんか?	早く温度を上げたい時は細い薪や十分に乾燥させた薪を細かく割って、多めに使用すると効果的です。薪をくべる時は、十分に乾燥した火持ちのよい堅木の薪を使用してください。薪については14ページ「薪について」をご参照ください。
バイパスダンパーが 開閉しない	ダンパーハンドルは動きますか?	低温度域で使用した場合や乾燥が不十分な薪を燃やした場合、やにが多く燃え残り、バイパスダンパーの回りに付着してしまうことがあります。その際は薪などでバイパスダンパーを軽くたたいてください。また、バイパスダンパーの開閉がきつすぎるときは、調節が必要です。「メンテナンス」のバイパスダンパーの調整をご参照ください。
	本体は水平に設置されていますか?	本体がななめの状態ではバイパスダンパーが開閉しにくいことがあります。本体の水平をとってください。
	焚きすぎによりバイパスダンパーか変形していませんか?	正常温度域をこえて新ストーブを使用すると鋳物が変形することがあります。変形部分を交換してください。※修理はお買い上げの販売店へご相談ください。

保証とアフターサービス

修理を依頼される前に

まずトラブルシュートで確認して下さい。トラブルシュートにない異常や破損がある時は、使用をやめ、お買い上げの販売店にご相談ください。

ご不明な点や修理に関するご相談は

故障・修理あるいは部品のお取り替えに関するこ相談、ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店にお問い合せください。

保証書（別添）

保証書は、取扱説明書に同封してあります。
「お買い上げ日・販売店名」等の記入をご確認ください。「お買い上げ日・販売店名」などの記入もれがあると、保証いたしかねますのでご注意ください。（記入もれのある場合は、お買い上げの販売店にお申し出ください）保証書は内容をよくお読みになった後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は保証書記載の期間です。この期間中に正常な使用状況で問題が発生した場合、保証書の規定に従って修理させていただきます。
保証期間中の修理に際しましては必ず保証書をご提示ください。保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合に限り、ご希望により有料で修理いたします。お買い上げいただいた販売店か弊社までお問い合わせください。

修理料金の内容

修理料金は部品代などで構成されています。
技術料／故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代／修理に使用した部品代金です。

バーモントキャスティングス日本総代理店
ファイヤーサイド株式会社

長野ショールーム／〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂497-871
TEL0265-82-4676(代) FAX0265-82-4683
http://www.firesidestove.com/
0120-46-7877 Email:info@firesidestove.com

Copyright 2007 Fireside Company Ltd.©
掲載されている全ての情報及び写真、イラスト等の無断転載、複写、複製を禁じます。

SAN/SN-07.3.500

非木材パルプ100%、植物油型インキ使用